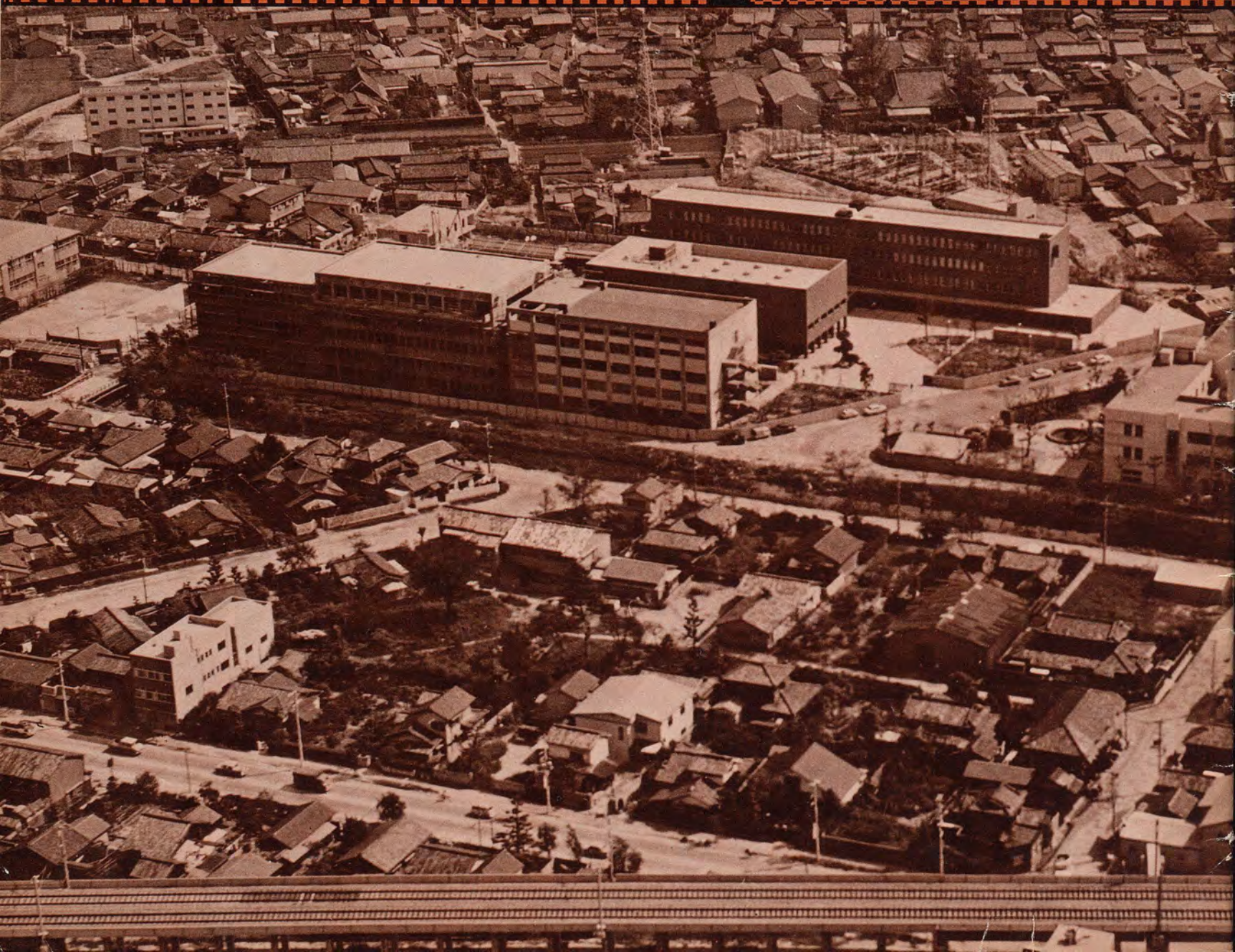


江 渡





1 万同窓への報告と訴え

学 長 藤 田 敬 三

皆さんがますますお元気で活躍下さっているお蔭で、本学も年と共に内容外観の充実を見ることが出来、全学七千に及ぶ教職員、学生が一応日本的に見ても大学の名にふさわしい学園の中で、研究に、教学に毎日を愉快に過ごして頂いておることは感謝に堪えません。この機会に昨年七月の「澱江」にご報告申し上げた以後の主な出来事について一言させて頂きますと次の通りです。

まず、待望の大学院（経済学部、経済学専攻）の修士コースが今春認可され、二年後の博士コースの用意も既に出来ておるということ、そして本年のその入学生は20名許りの志願者の中から選ばれた8名であったということでありましょう。これで学問の府としての実質を備えた本学が誕生し、前途有為な者を自から養成することも出来、同時に外部からも誘引し易くなったのは大きな収穫だったと思います。次に施設の面では、最新の設備を誇る教室（D館）と学生会館が合計約四億円を投じて建設され、近く竣工式を行いうる運びに達しておること、と同時に茨木市の福井町（万国博用地の東方数キロの丘陵地）に約十四万平方メートルの新校地を購入して、将来の発展に備えることに成功しました。勿論、これらの施設並びにこれに見合った教職員の充実、専門図書購入等のために本法人の財政的負担は急膨脹を来たし、学費引上げ等の必要も生じ、近來急激に問題化しつつある私学経営上の難点から全く自由であるとはいえないし、それだけ手放しの樂觀は許されませんが、本学の学費は尚大都市の私大中では最も良心的な低水準にあり、しかも一面、教職員の給与、学生へのサービス等においては関西での第一線を行く意気込みをもって、全学協力して経営の近代化と学内容の向上に努めており、その成果は近來、漸く内外に認められつつある実情にあることは同慶の至りと存じます。

しかし、当面の大学、特に私立大学の教育はご承知の如く、まさに一大転換期にあり、思想・学術における全般の急激な動きに沿った適切な対応に誤りなきことを期することは、到底凡庸なわれわれの努力を以て能くするところではありません。幸いに一万同窓諸兄のご協力とご支援によって今一段の前進と、さらに安定した経営の上に、この異色ある大阪経大の完成に邁進したいと、日夜念願しておるものであります。

しかし人類愛の立場から、真に次代の担い手たるにふさわしい若人を科学的に、また人間的に温かく、かつ勇気を以て世話して行くことは容易な業ではありません。同窓の諸兄もこの意味において、一段と母校への関心を高めて頂き、総会への出席などもさらに熱を加えて頂きたく、懇望する次第であります。日本の私学マスプロ教育のエスカレーター化は、当然に大学の空中分解に導くものでありますから、国家社会の責任は勿論のことながら、運命共同体たるわれわれが先づ一団となって民主化大学の健全なる発展に全力を尽さなくてはと思う次第であります。

澱 江

—第2号—

目 次

ご挨拶・澱江編集にあたって……渡辺達好……	2
1 万同窓への報告と訴え……学長……藤田敬三……	3
同窓会本部だより	
同窓会総会と昭和40年度決算、41年度予算……	4
あの頃のこと 揺籃期……	6
同窓会支部だより……	10
わが学園を語る……	17

本学教授 藤原光治郎 浅沼玄恵
梅田敏文 鈴木 亨
大槻 弘

クラブ活動の現況

学 術 会………20	芸 術 会………21
体 育 会………22	独立総部………23

学園の現況 グラビヤとともに………24

随想 菅野和太郎 西川清治 柏木得二……	29
山上善彦 中村美智子 前田悦子	
陰下嘉典	

北から南から — 同窓生短信集………33

□編集後記 □同窓生へのお願い………38

同窓会総会から………	13
学園の現況………	25

学歌 道 遙 歌………39

「澱江」編集にあたって

同窓会理事長 渡 辺 達 好

同窓生各位の熱望久しかった同窓会誌「澱江」を昨年復刊することが出来たもの、会心の作であったとはいえないかも知れないが、それはそれなりに十分の意義があったものと考ええる。これもなんとか早い機会に同窓会の機関誌を創らねばならぬものと役員一同の熱意の一端であることをご了承願いたい。勿論編集に当たってもらった常任役員の各位にはそれぞれ自己の職域での業務もあり、その余暇を利し或は業務の傍ら制作にくされたものであって、この間の労苦にたいして感謝の意を表さねばならぬと思う。復刊の反響についても非常にその労を多とするとともに、それが極めてさ、やかな作品であったも、同窓会一端を知り、或は在学当時

の同僚の短信等を懐しく読まれて非常に感動された会員もおられたことを思えば、編集者各位の恵めであったことも事実である。同窓会本部役員としても、何とか内容外観ともに同窓会誌にふさわしい会誌発行に今後をかけていたものである。ご承知のごとく昨年十一月に同窓会役員の改選のこともあり、役員の担当も本誌記録の通りに決定し、新編集者諸氏の努力により新たな企画をとり交ぜての会誌の刊行が出来、会員各位のお手許にお届けすることが出来た次第である。素より同窓生各位には尚満足して頂けるものとは思はぬが、年々充実した会誌の発行に一層の工夫と努力を傾けたい意向であるのでご承賜を願ひたい。顧みれば本学の卒業生が学

窓を出られたのは過ぐる昭和十年であり、この間九三十一一年を経たのであるが、既に同窓生も約一万名の多きに達した。

その間、第二次大戦という未曾有の戦乱に遭遇し、多くの卒業生を各戦野に失ったことは返す／＼も残念の極みで、今更ながら繰返す言葉もない。

今は唯多くの同窓生犠牲者や戦没者に対しご冥福を祈る以外にない。しかるに国敗れて山河は残り、日本の姿も大変貌をきたし、東洋の一角にある母国は戦敗国とはいえ終戦二十年にして飛躍的に復興し、その経済文化の興隆は頼みに先進諸国の一員としての地歩は益々強固となりつ、あることはご承知の通りである。

母校の進展も、内容外観共に異状の

隆盛を見ていることは、卒業生として非常に喜ばしいことである。本誌にもグラビヤその他で紹介しているように瞳目に値するものがある。同窓生各位にも是非母校を訪ねてその発展の姿を見て欲しいものである。

同窓生各位には、かつて母校において体得せられた諸種の知識及精神を生かして、各職域において大いに活躍され、いよいよ本学卒業生の真価を発揮せられていることは誠に同慶に堪えないところである。

本誌発行に当たっては一年に二回刊行の予定であったが、別に編集後記にもお詫びしてあるように、予算の許す限りよりよいものをという配慮から一回にすることにした点ご承願い度い。

今後とも同窓生各位のよりよい同窓会誌として育て、いきたいと思うので、何卒格別のご鞭撻を請う次第である。終りに各位のご多幸とご健康をお祈りする。

新しい理事と支部長

▷(1)安田 豊▷(2)松原四郎・中島春雄▷(4)中村 源・三木 薫・森元庸晃▷(5)岩瀬次弘・岸本健蔵・清水忠文▷(6)川島正作・伊藤音七郎・吉見 巖▷(7)日南為男・高垣 収▷(8)柴田秀一・長尾 晃・中島政義▷(9)山口久雄・武川茂夫▷(10)井井貞詮・辻野勝一郎・竹内美次▷(11)桑津昇・筒井英夫・重里 実▷(12)坂上謹之助・斉藤 満▷(13)前田悦子・井本澄子▷(14)上野満里子・柴田悦子▷(15)黒田稔・大川孟志・▷(16)百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・西尾良明・相馬士朗▷(18)浜本泰・貝塚 茂▷(19)山中良夫・橋本基一郎▷(20)山村泰造・川野群平▷(21)黒木洋・丸岡啓二・金原克己▷(22)大槻明司・森本真輔・内田和市郎▷(23)酒井弘光・西本集一・坂口良三▷(24)幸野義久(25)嶋俊一郎・松田浩作▷(26)田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)定森文彦・柴田吾八▷(28)田中 渉・川村隆彦

同窓会支部長

- ▷東京支部長 服部友一(10)
- ▷東海支部長 岡田佐市(6)
- ▷滋賀支部長 野田邦弘(4)
- ▷京都支部長 木下隆徳(6)
- ▷丹有支部長 梶村文弥(8)
- ▷神戸支部長 三好悌彦(6)
- ▷姫路支部長 永川仁一(6)
- ▷和歌山支部長 松本旬弘(5)
- ▷岡山支部長 大森喜多志(6)
- ▷広島支部長 佐々木一義(9)
- ▷山口北九州支部長 小田 護(3)
- ▷高松支部長 水野高司(12)
- ▷徳島支部長 谷俊一郎(9)
- ▷高知支部長 横田憲介(7)
- ▷九州支部長 荒牧博之(6)
- ▷石川支部長 石地与四太郎(2)
- ▷大阪市役所支部長 中村宗啓(3)
- ▷和歌山相互銀行支部長 斉藤照雄(4)

昭和40年度決算表

昭和39年10月1日 ～ 昭和40年9月30日

収入の部		支出の部	
前期繰越	2,809,499	特別基金勘定へ振替	2,000,000
会費収入	5,950,200	総務費	336,783
名簿収入	8,600	役員会費	378,902
雑収入	331,552	支学園対策費	311,945
		事務費	809,170
		募金事務費	230,706
		募金設備費	1,087,643
		募金事務費	601,347
		募金事務費	315,410
		募金事務費	170,886
		募金事務費	7,050
		募金事務費	2,000,000
		募金事務費	1,937,652
計	9,099,851	計	9,099,851

昭和41年度予算表

昭和40年10月1日 ～ 昭和41年9月30日

収入		支出	
前期繰越	1,937,652	総会費	450,000
会費収入	6,000,000	役員会費	470,000
雑収入	350,000	理事会費3回	200
		常任12回	120
		臨時役員会	50
		支部費	400,000
		学対費	1,000,000
		編集費	1,750,000
		名簿費	1,000
		澱江	750
		事務費	400,000
		人件費15×14月	210
		事務費	190
		慶弔費	50,000
		予備費	650,000
		特別基金	2,000,000
		次期繰越	1,117,652
合計	8,287,652	合計	8,287,652

同窓会本部だより

昭和四十年年度決算と新役員を選任

同窓会総会盛会裡に幕

昭和四十年年度の同窓会総会が、昨年の十一月二十一日母校において開かれた。いまや、同窓生の数も一万人になんなんとし、広く社会の各分野において活躍しておられるが、同窓生同士が顔を合せる機会は今もなかなかにない。この総会は、こうした同窓生同士が顔を合せる唯一の機会でもある。総会においては予算、決算の報告について、質疑も活発に行なわれたが、そのあとではくつろいで、久しぶりの歓談が行なわれた。

知った人達の姿を求めあつて終始笑顔のうちに話はつきず、本当にわきあいあいたるうちに会は進行しました。中には子供連れ、奥さんと一諸といった人達もみえ、妻や子に自分の出た学校を紹介している姿など微笑えましい情景で、上を通る新幹線のひかり号をバックに、それは一プクの絵でもありました。

きせずして、出席者の中から、総会といわれないまでも、こうした会をたびたび開いてくれというご要望もありましたが、同窓会も会報「澱江」の充実とともに、今後とも一層活動を活発にしていきたいと思っております。

なお当日、総会では藤田学長をはじめ、菅野和太郎氏など来賓各位からも有意義なお話をいろいろとおき

新しい常任理事とその分担

(括弧数字は卒業回数を示す) (敬称略)

- ▷教授側 藤 原教授
- ▷理事長 渡辺 達好(3)
- ▷事務局長 広田 実(1)
- ▷総務部長 山上 善彦(2)
- ▷企画部長 世良 錬次(3)
- ▷編集部長 比企 重(7)
- ▷会計部長 磯野 育(3)
- ▷監 事 宇野善四郎(1)

議案事項 一、昭和四十年年度(昭和三十九年十月一日から昭和四十年九月三十日) 昭和四十年十二月二十四日同窓会理事会開催、過日の同窓会総会の決議に基き、同窓会役員任期満了に伴い左の各氏が各回より選任され、これから三カ年間お世話をお願いすることになりました。

日) 決算案並に同窓会ホール募金勘定決算案その他、原案通り承認可決されました。一、本年度をもって同窓会役員任期満了に伴い、改選の件は各回卒業生中より三名推選することを承認可決されました。

また同日引き続き夜五時より大阪ロイヤルホテル一階ホールにて、同窓会全国支部長会が開催されました。全国支部長を囲み学校側より田岡理事長、藤田学長、藤原経済学部長、北里経営学部長、土生教養学部長、同窓会本部よりは渡辺理事長外各常任理事が出席して、今後の各支部の発展を祈念して支部長会を終了しました。今年出席出来なかった各位は来る年の総会には是非元氣な御姿を拜見致し度くお待ち致しております。



期 盤 揺 • 1 あのころのこと

▽…この企画は、卒業生の口づてに伝える学園の歴史である。△
▽…この学園も、創設されてすでに三十有余年、その間幾多の△
▽…波乱、幾多の交せんを経て、いまや大阪経済大学として、△
▽…揺ぎない基盤の上に立派な校風をうちたてた。思えば浪△
▽…華高等商業学校にはじまり、昭和高等商業学校さらには△
▽…大阪女子経済専門学校、大阪経済専門学校、そして大阪△
▽…経済大学へと五つの大きな変動期を経過。それぞれに苦△
▽…難の道ではあったが、苦しみにつけ悲しみにつけ、はた△
▽…また喜びにつけ、いまは楽しい思い出として、それぞれ△
▽…卒業生の胸に暖く宿っている。その折り折りのエピソード…△
▽…ド―そのエピソードを綴り合せたのが、このページである。△

浪華高商から昭和高等商業へ

(一回～三回)

間借り生活から出発

「生れ出ずる悩み」これはいかなるものにもある。ましてや、生まれてからの準備万端が整っていない場合の出生はおさらである。本校の場合が、ちょうどそれに似通っていた。

学園が発足したのが、昭和七年五月。

「学生募集」の広告を見て、願書をとり足運んだのが、南区瓦屋町の「日の本足袋」の旧社屋、ここに発足当時の校舎があった。

校舎が旧民間会社の社屋を借りるといった変則的な出発であるから、もちろん立派な校舎であるわけのものではない。

それでも一応の試験を受けて、合格したのは一〇〇名。応募者がいくらかあって、ふるい落されたのがいくらかであったか、思い出の中にはな

い。多分―一〇〇名そこそこの応募者ではなかったろうか、専門学校とは名ばかり、やどり木のような学校では、これも無理のない話。さてここで一年授業を受け、二年目から変わったのが福島区の大坂工科大学。

この学校は働きながら学ぶ人達の夜間各種学校。当然昼間はグラウンド。これに目をつけて昼の間は浪華高等商業学校の仮校舎となったわけである。

夜間専門だから、これとても立派な校舎であるわけのものではない。おそまつな木造建築、いってみれば寺小屋に毛のはえたようなものだった。

当然、学生の中から澎湃として起った声が「校舎を建てよ」というものだった。

それも無理はない。入学当時の一〇〇名の入学者の出身地を調べてみ

ると、そのほとんどが他府県出身者、つまり田舎者だった。それが商都大阪に、私立の高等商業学校が出来た。おそらく立派な学校になるだろうと、希望に胸ふくらませながらやってきたのが、この現実である。

日増しに高まる学生の要望に、学校当局も安閑とはしておらず、校舎の建設着工におよんだのが、現在の上新庄の旧校舎。

その方の建設が、まもなく二年の才月にはまたたく間にすぎた。一回生は、このまゝいけば仮校舎のままの卒業である。なんともみじめな気持ちになっている時にやっと体育館だけが完成した。いまの旧校舎内の体育館である。

間借り生活にも限度がきて、ここに移ったのが昭和九年四月、本校舎の建つまで、なんとこの体育館が教室に早変わりしたのである。

もうその頃は、発足後三年、学生数も一回生が九〇名近く、二回生がやはり九〇名から一〇〇名、三回生が一五〇名と膨れ上って大人数になっていた。

これだけの学生を、あの狭い体育

館に収容したのである。

小学生とは違う。いかにすし詰め教室とはいえ、あれほど酷なものではなかった。

しかも、一回生、二回生、三回生の教室は間仕切りである。天井はすけすけ。なんとも統一の欠けること先生の声が交錯してききとりにくいのがなによりも致命的だった。

それに、当時の上新庄は、いまのそれとは大いに違う。「一望千里」「五穀豊穡」がそのまま通ずるような野原のまった中、昼めしにも、お茶にも困るような状態だった。

そんな中にも、機を見るに敏な大阪人のこと、福島のパン屋の食堂の一〇銭のカレーライスをなつかしんでいるうちに、いつしか体育館の南側で野天に釜をすえ、青空食堂をひらいた近所の老夫婦があった。いまから思えば、衛生施設もなんのその不潔きわまりないものだったが、それでもその当時は大きな救いだっ

た。うどん五銭、カレー十五銭、食欲旺盛な学生にはかっこうのものだった。

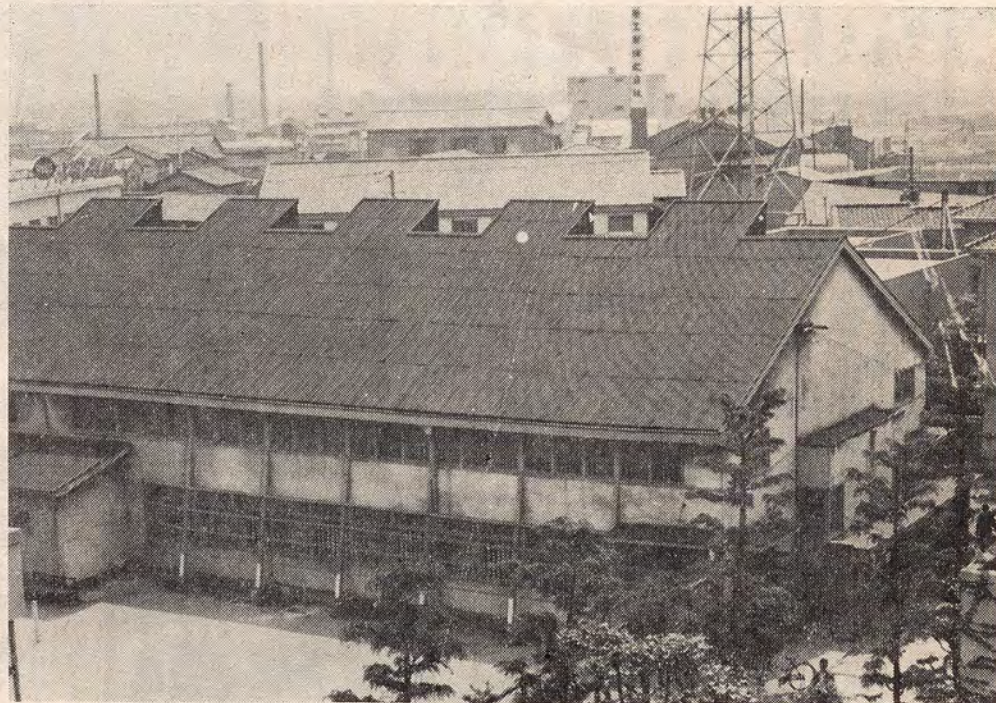
学園騒動とストライキ

そんな中であって、ついにきたるべきものがきた。

間借り生活から、間仕切り教室へと不自由をしのぐための勉強だったが、やっと新築の校舎を得てほっとしている矢先き、今度は学校の存立に関する暗い影がさしはじめ学生の間にも話題にのぼるようになった。

もちろん当時のごときその真相は学生の知るよすががなかったが、マスコミはこれを取り上げた。

これでは一体この学校の将来はどうなるのだらう。学校を愛するが故に、学生の不安



一年から三年までの授業が行なわれた体育館

は、優柔不断な学校当局に対し大きな不満となつて爆発、学生ストライキとなつてあらわれた。

その時期も第一回生の卒業式を直前にひかえた文字通りの学年末、主体は一、二年生。

学生達は授業を放棄して現河内長野市の観心寺にのぼった。

当時を回顧すれば、本当に学生達の真情は、学校をよくするという純粋な気持ち以外のなものでもなかった。

兵糧はにぎりめしとたくあん。寒さはきびしかったが、それに克つたけのファイトもあった。

一晩山の上ですごし、さらに籠城のかまえたが、翌日藤原、中村三浦の三先生が説得にみえ、一応鉢をおさめて山を降った。明けて翌日は卒業式、参列者はそれぞれに複雑な気持ちで式にのぞんだ。

出るもの送るもの、波乱の中での勉強だっただけに、また、一騒動のあとだけに、一入感慨も深かった。

ただ、卒業式は終えたものの、その後の事態の收拾は容易ではなかった。

一応学生側としては期末試験を受け春休みに入ったが、学生代表は府庁へ日参の日が続いた。

ストライキは、社会へも大きな波もんを投げかけ、反響はたしかにあった。

しかし、一部には解散、廃校のうわさもないではなかった。

こんな中で新学期は始まったが、学生はうつうつとして楽しまず、勉強にも熱が入らない。そのうちに七月夏休みをひかえて学生の中から「もう一度山に登ろう」という声が期せずして起った。つづいて学生大会、ここでもその大半九〇%以上がストやるべしという強硬派だった。

ただ、そうはいくものの、学園のおかれた微妙な立場を考えると、ここしばらくは自重してはという慎重論も一部に強く、やっと強硬派をおさえてストを回避、夏休み明けをまつことになった。

昭和高等商業と黒正校長の登場

一方こうした学園の紛糾をまのあたり見て、学園の外でも事態收拾の動きは一層活発になっていった。

まず京阪電鉄社長の有田邦敬氏を中心として学園の再建策がねられ、新しい財団をつくり、京都大学、大阪商大の力を借りて、学園は再出発することになった。(この間の事情は随筆欄にある菅野和太郎氏の文をおよみ下さい)

その再建の中心的人物として白羽の矢がたったのが、当時三十才代にしてすでに京都大学農学部教授であった黒正厳氏である。

黒正先生のことについては、すで

に学園の大恩人として、ここに記述する必要もないことだが、先生は岡山県の大財閥黒正家の養子として迎えられ、若くして欧米に留学、その実力は万人の認むるところで、その天衣無縫の人柄とともに広く人々に愛されていた。

学園の再建にあたっては、けだし適任、先生もまた若き情熱をもってことにあたられた。

先生達の招聘や、学校の運営にも精力的に動かれ、足らざるところは私財をもって、これにあてられた。その額は、われわれの想像するところでは、時価に換算すれば億を越すものではなかったろうか。

この黒正先生の情熱が、他の学校関係者の共感を呼び、これを扶けるのに有田京阪電鉄社長はもとより、河田大阪商大社長、本庄栄治郎京大教授、菅野和太郎商大教授といったそうそうたる先生方の協力も得て、ここに学園は文字通り「雨降って地固まる」のたとえ通り、強固な基盤を得ることになったわけである。

忘れもしない。黒正先生の就任の挨拶は、学園騒動のあとで校舎の窓ガラスはほとんど破れ、荒れ放題の講堂で行なわれた。

紋付き袴姿で演壇に立った黒正先生は、学園騒動には何もふれず「学生の本分を忘れず、しっかりと勉強してくれ」その一言だった。

いや、他になにかあったかも知れない。しかし学生達にとっては長い苦難の道を歩んできて、やっと立派な校長を得た安堵感が、ほかのことをすっかり忘れさせたのかも知れない。

とにかく、これからは勉強しようという意欲が全学生の上にみなぎっていたことは事実である。

師弟愛と暖い友情

磐石の基礎が出来て、その上立派な多くの先生をつぎつぎに迎え、あとは学生にとっては勉強という敷かれたレールの上をまっしぐらに走るだけである。随分授業ではしづられたものだったが、思えば以後楽しい学生生活だった。

そうそう、その上につけ加えておきたい大きなことがある。

このように苦難の連続であっただけに、他面学生の団結は非常に固く個々友人同士の結びつきも兄弟以上まさに心と心のふれ合いだった。

「家貧しうして孝子出ず」という言葉があるが、まさにそういった感じだった。

また、学生同士の結びつきだけではなく、先生と学生の師弟愛も自慢するに足るものだった。

なにしろ学生数は全学で三〇〇名そこそこ、先生にとってはちょうど手ごろ、しまいいはすっかり顔も性格もおぼえてしまっていて、その人その人にあった個人指導もやってもらった。

反面、全てがわかって都合の悪いのが代返、出席をとるたびに、声の調子を替えてハイ、ハイ、ハイとやるわけだが、声の調子が変わってグイと一にらみされると全てがバレてしまう。これには何ともみんなのおおろりだった。

そんな調子だから、先生とは何でも話が出来た。学問上のことはもとより、一身上の都合のことでも何でも先生のところへ持ち込んだものである。

このような、全学一体となった心と心のふれ合いは、和気あいあいたる校風をつくり出したが、また一方

学校の整備の面でも師弟一体となつて少しでもよい学校へ、うるおいのある学校へと努力を重ねられた。

先きにものべたように、新しい校舎が出来た当時は、周辺は蒼茫たる田園。校庭の予定地は草ぼうぼうの野っ原だった。

それに樹木というものは何もなくただ広っぱに白亜の校舎がぼつんとあるだけ、何ともうるおいのない殺風景なものだった。

これではいけないというので、先生と学生が一体となって、学校周辺の整備につとめ、まず草を刈り、土

を運び、木を植えて勉強の出来る雰囲気をつくらせてきた。

いまも学校の周辺にあるアカシアの木は当時吹田の成蹊学園からもらってきて植えたものである。木は年々成長する。あの当時植えたちっちゃな苗樹が、いまは大きく育って学園を色どっているのである。

一本一本の木にも思い出がある。われわれの汗の結晶が今日、こんなにも実を結んでいるのをまのあたりに見て本当に感無きようである。

また、野っ原の校舎であつただけにほこりもひといい。

この木にも思い出がある



朝などは机といわず、椅子といわず砂とほこりで真っ白、何とも勉強出来る状態ではない。

そこで、一人が朝早く登校して水を汲み、机、椅子を拭き、廊下に水をまきはじめると、あとからあとへと人が続き、またたく間に学校の清掃がゆきとどき綺麗になった。

不言実行。

当時は、学園の存立をかけた騒動があつたあとだけに、「われ等が学校」という意識はつよく、愛校心はどこよりも強かった。

よく学び、よく遊び

さらに、この全学一致した団結の強さは、いろいろの面にあらわれたが、当時からクラブ活動は盛んだった。校庭の話が出たが、あの夏草茂る中で陸上競技部は草を刈り、道を

なつかしい旧校舎正門



つけ、さらにフィールドを整備して、走り、跳び、投げていたが、最先きに優勝杯をもちかへったのは水泳部四年目にして少数精鋭で二部のインターカレッジに優勝、この時ばかりは黒正先生も大喜びだった。

プールなどももちろんない。学校の前の川がプールがわり、その頃は水も清浄で魚もすいすい泳いでいた。

その後、サッカーが全国大会で優勝、この方はそれ以後常に他校を圧し、サッカー王国としての輝かしい伝統のいしずえを築いた。

運動部ばかりではない。

学芸の方でも、つとに優秀な人材を輩出、全国大学専門学校英語弁論大会にも入賞者を出したし、雄弁で名をはせた者もいた。

この頃の当校の学生気質は概してバンカラ、田舎っぺが多かったせい

なかったが気骨はたしかにあった。

勉学の方も向学心に燃えてはるばる上阪してきた連中だから、熱心だった。

特にその当時は語学には強かった。授業そのものも、語学は主力で随分しほられたものだが、よくこれにたえ、おかげで高商を出てからさらに一流大学へも相当進学したものである。

とにかく、当時は波乱に満ちた学生生活だったが、それなりに人と人との結びつきは強かった。

学窓を育ってから、すでに三十有余年、いまでも互いに旧交をあたためあっている。

これもひとえに人並み以上の苦案をともしたたまものであろうか。

先生のことども

最後に、思い出すままに先生の横顔を少しくご紹介しておこう。

開校当時の徳永校長はしばらくおくとして、当時の先生を列記すると簿記の石川彦作先生、それに貫伝松先生、河野先生、妻木先生と立派な先生も多かったが、浪商関係の吉岡加藤、篠原、堀、佐伯の各先生も印象に残る良き先生達だった。その後宮川、中村、館林、藤原といった各先生がそれぞれ赴任してこられたが藤原先生は、現在も現職でご活躍、同窓会にもっとも関係が深く、今日もなおお世話願っている。

当時はまだ少壮気鋭の先生で、ゴツトルの経済学を教えこまれたものだった。

異色の存在として忘れることの出来ないのは倫理学の渋谷先生、頭は茶びんさんだが、眼光するどく、いつも和服で「日本精神」をこんこんと説いた。

また米津次郎先生も、われわれには忘れることは出来ない。

学生とともに汗を流されたのは、もっぱらこの先生、担当は独逸語、保険論だったが、単に学問の上だけでなく、学園の植樹に清掃に、身をもって範をたれ、勤労のいかに尊いかを教えて下さった。

また、英語が強かったということでも思い出されるのが、ミスハツラー先生。この人は宣教師で港区の築港のあたりに教会があつたが、英会話は拔ぐん、学生の会話の上達には力があつた。

学生もその徳をしたって、港区の教会までよく出かけていったものである。

さらに英語では吉岡先生、この方の授業もきつかった。

学生時代には、そのきびしさをよくくらんだものだが、いまはただ感謝あるのみ、よき思い出としてなつかしい。

その他、一人一人を紹介していけばきりはない。紙面がつきたので、この辺でペンを置く。

最後に、ただな分にも三十数年も前の話、あるいは記憶違いがあるかも知れない。

また、これ以上の話題があつたかも知れない。しかし、今日のところはなつかしい思い出を語るといふことで、ご勘弁願いたいと思う。

お話をきいた人

第一回 広田 実氏

第二回 山上 善彦氏

第三回 渡辺 達好氏

三原 英武氏

同窓会支部だより

同窓会支部は、いま十八ある。その地方地方で特色のある活動が行なわれているが、これはその報告である。

またお便り下さい

東 海 支 部

名古屋市中核とする中部経済圏は、本邦屈指の商工業圏であることは今さら申し上げるまでもないことであるが、この名古屋市中核に東海支部が存在することは、母校ならびに卒業生の発展および親睦の大きな支柱となっており、ご同慶に堪えないと同時に支部の意義を痛感するところでもあります。

東海支部の紹介をくりかえすことは恐縮ですが各地支部の内最古の歴史を有していることは支部の最大の誇りとすることで、終戦前後、名古屋市役所に奉職して名古屋市の編纂に従事しておられた前教授上田藤十郎先生の肝煎り昭和廿二年に発足、第一回の支部総会を栄町南の五金サロンで開催したことなど未だ昨日の如く記憶に新しいのであるが以後毎年一回開催して、早くも本年は第十九回支部総会を近日開催の運びになった次第であります。来年は創立廿周年に当るため支部の記念行事も企画したいと存じております。その際は母校はじめ各地兄弟支部には大いに協力のもと本紙上を通じ

て今からお願ひ申し上げる次第であります。

さて、前第十八回の支部総会においては「母校の近況」と題する8ミリを映写して母校の躍進振りを鑑賞し、議題として愛知、岐阜、三重、静岡の四県にまたがる東海支部を各県毎に支部を分割すべきの議案を上程したのですが、岐阜および三重の会員より現状維持の声多く、結局従来通りに存続することとなりました。その後特にお知らせしたいことは、

一、本年四月、学校法人大阪経済大学評議員であり第7回卒の比企重氏が日下部産業(株)名古屋営業所の開設ならびに初代所長として来名大物会員が入会されました。

一、第十九回支部総会を去る十二月十一日(土)夜名古屋市内にて開催大盛況でした。

一、今春の母校入学試験が名古屋市の名銀ビルにおいて実施されました。

報告事項は以上の通りであります。が百四十名余を有する当支部は支部会員の掌握あるいは連絡に不備の点が多々あり、支部会員諸兄にも迷惑をおかけしていることと存じます

丹 有 支 部

同窓会員のみな様いよいよご多幸にて、それぞれの分野にご活躍されておりますこと、心よりお喜び申し上げます。

丹有支部とは、丹波、有馬の地名によるわけで、6つの高校卒業生と当地在住者が会員で、卒業生会員と学生会員の別があります。現在卒業生会員は約一〇〇名ですが、近年当地より母校への入学生が逐年増加し在学生会は50名をこえています。地域は狭いわりに次第に盛大になり団結も強固です。

当支部は毎年母校の軽音楽部を招いて演奏会やダンスパーティを開催

広 島 支 部

銀行簿記、文書実務、商事教務課、ソフトボール1

一、去る昨年七月二十四日市内比治山遊園において昨年度支部総会を開催しました。当日の参加者は本部より三回卒業野常任理事、同窓生二名在学生会二名それに元教授「民法」の河野実先生もお元気な顔を見せられ、三五名の集いで盛会裡に終始しました。なお、ご出席予定の旧教授中村清十郎先生が欠席されまことに残念でした。同窓会は年に一度の行事であり、若かりし昔を偲ぶとともに、会員同志が親交を深め、社会的に助け合うことに非常に有意義であり、とくに戦時中ブランクのあった母校の新旧会員のかけ橋としての存在は大きく、こんごともやらねばならないという責任さえ強く感じさせました。いづれにしても同窓会は楽しみの一つであり、またそうなくてはならないものであり、会の隆盛が母校の発展に直結しているものと確信しております。当日の出席者は記

念写真の通り)

一、出張入試試験場の移転について。近年受験者の急増のため当地の試験場を新装成った商工会議所ビルで実施されました。

佐々木一義

高 知 支 部

高知の卒業生の会合は近年とどえたる感んじで、再出発をしなければならぬ。千頭君が急逝されてよりリーダーがいなくなったこともその原因の一つである。在高の方々のおあつまりを願って千頭君のためにも永続するようにしなければならぬと思っている。

母校発展のためには物心両面の協力が必要で、そうすることが一番大切なことであるが、在高の方々の集合もなかなか本年度は何んとしても集まって地がためをしたい。

昨年総会に列席して立派になった母校を見、旧師におあいして大変なつかしく思った。各支部がそれぞれ立派に活躍されているさまを拝聴してたのもしく思ったと同時に羨しく感じたことであつた。

高知へはどなたでも自由に來高されて連絡に御休息に御研究に利用出来る施設がほしいとまあええから考えている。何にも出来ないでいる現状でオーバーな考えであると思うが、かたちだけでも何んとかしてみたいと思つてゐる。

卒業生たちはそれぞれの分野で立派に活躍されていて誠にたのしみと思ひ、四十一年度は協力しあって面目をたもたい気持で一杯である。(三回生 田中 勇)

横田 憲介

岡 山 支 部

三好 悌彦

これからは続けて行こうと皆張切っています。一寸変っているのは、その都度開催幹事が持ち廻りで、春は第九回卒、秋は第二四回卒の方々が開催してくれました。これは神戸支部同窓の皆さんの考えで、縦横の繋がりと、バライティに富んだ愉快な同窓会にしようという主旨で、春の總會の時決まりました。来春は二六回卒の方々が開催してくれます。何か面白いことが飛び出すんじゃないかと期待している次第です。

神戸ならびに近在の皆様、お知らせが充分には行き届かなかったことをお詫びいたしますとともに、民主的な楽しい同窓会へ、次回は是非御出席下さい。支部連絡先迄いつでもお便り下さい。次回を御連絡いたします。

岡山県高校教諭の集い 現在岡山県下高等学校に左記の十七名の同窓生が奉職しています。昨年浅沼先生に出席していただいて、はじめての集いをもりましたが、みんな張り切っています。以下氏名、卒業回数、勤務校、担当科目、校務分掌、経験年数、所感、意見といったものをきいてみました。前の数字は卒業回数、あとの数字は経験年数です。なおブランクになっている方については、〆切日までに応答がなかったのですが、勤務校には間違いはありません。

鳥越 侃2 岡山南高
平尾宗之7 片上高英語、商業、教務
富山義正9 和気閑谷高、商業簿記

岡山県高校教諭の集い 現在岡山県下高等学校に左記の十七名の同窓生が奉職しています。昨年浅沼先生に出席していただいて、はじめての集いをもりましたが、みんな張り切っています。以下氏名、卒業回数、勤務校、担当科目、校務分掌、経験年数、所感、意見といったものをきいてみました。前の数字は卒業回数、あとの数字は経験年数です。なおブランクになっている方については、〆切日までに応答がなかったのですが、勤務校には間違いはありません。

藤原一志27 新見商5
藤本一彦28 高梁日新高、商業簿記
文書実務、経済、生徒課、野球4
赤木俊夫29 市立玉島商、商業一般
商業法規、庶務3
前回開いた県下教員集いをまた開いたらいかがでしょう。
中山 進30 津山商、商業簿記、商業一般、育英2
母校の発展を祈っています。
藤中 明31 新見商1
小川秀治31 高梁日新高、商業簿記
商事商業一般、教務課、芸能1
いろんな意味で発展を祈るのみです
石田耕基31 高梁日新高、商業簿記



広島支部総会から

大阪市役所支部

大阪市役所支部結成以来当支部の育成強化に努力された、広田支部長（北区役所市民課長）が、定年前をもって昨年七月十四日付で勇退されたので、送別会を兼ね、支部臨時総会を昨年九月六日に開催し、支部長等を次のとおり決定した。

記

支部長 中村宗啓（北区税務課長）
副支部長 梅本典之（南区収入役）
幹事 村上静夫（福島区市民課長）
坂田昌男（東淀川区税務係長）

砂山 保（浪速区税務課長）
矢野吉徳（東区税務課長）

支部連絡先

坂田

和歌山相互銀行支部

支部長 斎藤照雄（第四回生）
支部の強化は何んといつても支部の構成メンバーである支部員の人員増強にある。支部の人員増強の唯一のチャンスは毎年の入行試験の結果にある訳で、そのためには多数の母校出身者の入行を希望し、また些細な努力ではあるが、支部員一同入行にあたっては努力もしてきたところであるが……。

“青田蒔り”に始まった好景気時代にもわれわれのところへは毎年応募者の途絶えることのないようにお願をしていた。

とかく好況時は見向きもしないのが人情であるが（今日の母校の就職ネームバリューもまことに高まったものと言える）われわれの言を入れられて好景気の時代から毎年優秀な

支部にご参加下さい

同窓会支部は東京支部、東海支部といった地方別の支部から、大阪支役所支部、和歌山相互銀行支部といった職域の支部といろいろありますが、それぞれ先輩後輩のむすび合いも深く、特色のある支部活動が行なわれています。

とかく、年代がはなれすぎると遠慮があるものですが、そんなものは一さい無用です。新しい同窓生もどんどん入会していただき一層たのしい、実り多い支部にしたいと存じます。ふるってご加入下さい。

ク「寄贈。——大阪日産自動車勤務卒業生会一同——

大阪日産自動車株式会社（日産自動車）大阪府下における総合販売店で従業員一、六五〇名に勤務する大阪経大卒業生会（三回生世良健次以下五二名）では、去る二月二十三日同窓会ホールで、卒業生総会を開催するにあたり、大阪経大自動車部創設委員長稲原康雄教授、自動車研究会主将増田多紀夫君他教授学生会の代表を招き六十二年式セドリック一台を寄贈した。

卒業生会ではこのセドリックを自動車部創設の基礎として活用して、大阪経済大学の自動車部として誇りのあるユニークな発展を希望している。

目録

一、一九六二年式

セドリック乗用車 一台

右は大阪日産自動車株式会社に勤務する大阪経済大学卒業生一同が、母校自動車部創設のための基礎として寄贈するものであります。

思うに自動車産業は、モータリゼーションの進展とともにめざましく発

達し、今やわが国の基幹産業として世界第四位の生産を誇っています。

こうした状況の中でわれわれ自動車界に働く先輩としてかねがね母校に自動車部のないことを非常に遺憾に思っておりました。今般幸いにも諸先生方の良き指導のもとに自動車部が創設されることとなり、われわれ一同大きな喜びと存じ、今後とも協力を惜しまないことを約するとともに大阪経済大学の自動車部が、単に自動車の運転技術の向上にとどまらず、自動車産業全般に関する調査資料の収集等を経済学的な立場より研究する健全な学生自動車部として、運営される事を希望するものであります。

昭和四十二年一月二三日

大阪日産自動車株式会社
大阪経済大学卒業生会

幹事 広瀬善一郎
滝 広一
西本 集一

大阪経済大学
自動車部創設委員長
教授 稲原康雄殿

40年同窓会総会から





 懇親会スナップ

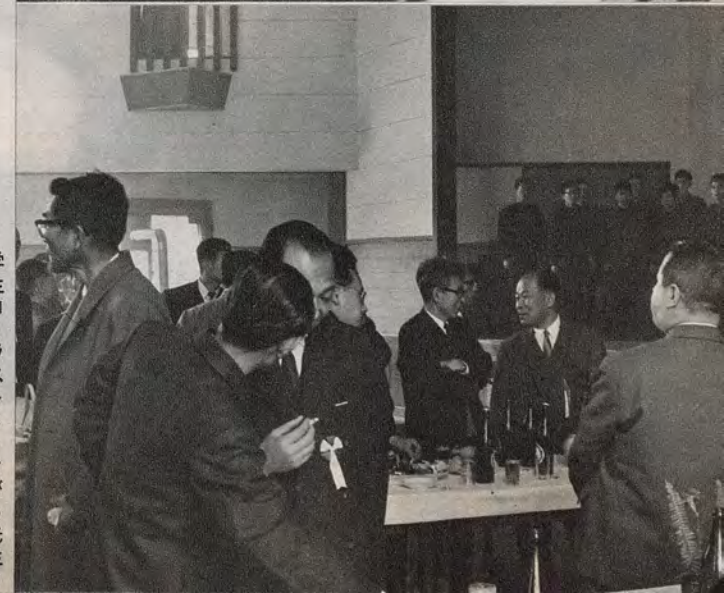
先輩お久しぶりです



いまは立派なママさんです



学生クラスをき、ながら先生と



懇親会会場

わが学園を語る

＝同窓会の積極的な協力を願う＝

—— 本日はお忙しいところをありがとうございます。今日は「わが学園を語る」ということで、先生達と同窓会と自由に放談していただくというわけですが、この原稿は、いづれ瀬江に掲載されて、全同窓生に配られることになっております。同窓会も、もう会員が一人になんなんとし、卒業生の回数も今年の卒業生が第三十二回ということで、非常な発展を上げています。

新しい大学制度と学生気質

また、学園そのものも立派な建物が旧校庭一パイに建ち並び、この四月には「学生会館」まで出来るという事です。

学窓を出てから、一度も学園を訪れたことのない同窓生もあることで、現在の偉容を一度ご覧になれば大変感激されることでしょうが、この偉容はいずれグラビヤでご覧願うことにして、今日は形にあらわれないう内容の方を存分におうかがい

大学もほんとうに立派になりました。学舎はもとより今年の四月には大学院も発足、学生数も倍増しています。まや学生の数は全校合せて七千人にも及ぶということです。

大学への入学も、最近とはみにむずかしく、今年の入試は、その競争率がなんと二十倍にもなったということです。

そこで、今回は、大学の現況を藤原、浅沼、梅田、鈴木、大根の各先生がたにお出ましを願って、大学の現況をいろいろときいてみました。



座談会

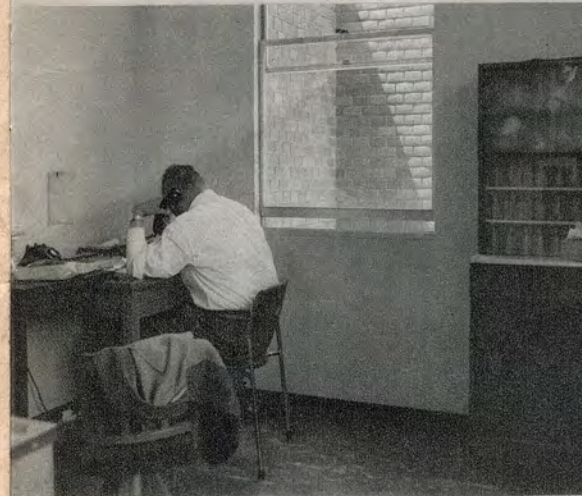
たいと思います。

—— といって、何からお伺いしたいのか—— まず現在の在校生が多いという事で、現代学生の質と気質ということからお伺いしましょうか、藤原先生一つ。

藤原 新制大学になったのが昭和二十四年ですが、入学志願者が急に増えてきたのはここ二、三年です。新制大学はアメリカの学制を真似したわけで、昔に比べて学生のとらねはならぬ科目、いまは単位といっていますが、これが少い。一時間の講義に対して二時間の予習をするのがアメリカ式ですが、日本はそれをしないから、たしかに学力は相当低下している。それでもいまは十分よくありませんが—— それと学生の気質ですがこれも昭和商以来の黒正イズムですが、そういった校風は何等かの形で残っておりますが、ただ現在では僕らについてはゼミ以外の学生は余り知りません。学生の方からやってくれば同じ気持でつき合います

同窓会ホール

みなさんご利用下さい

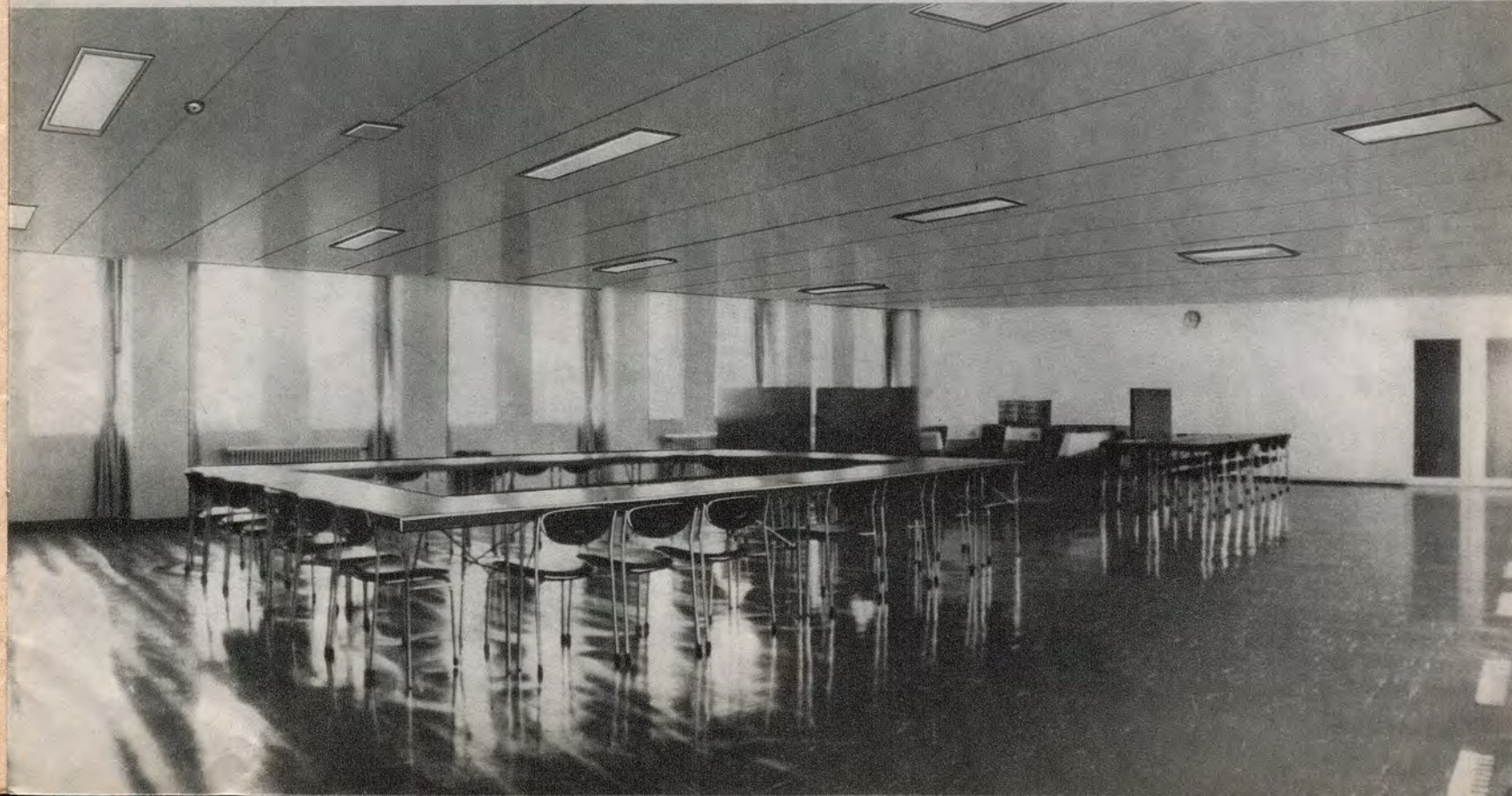


事務室



応接セット

ホール全景





写真右から藤原、大槻、梅田、浅沼、鈴木の各先生 —同窓会ホールにて—

が、先生方と学生の関係が密でなくなったことは事実ですね。

鈴木 たしかに昔の方がよく勉強して、質的にも秀れていたような気がします。ただこの場合は数が少ないですからね。今日マスプロ教育といわれるように大量に学生がはいると、学生そのものの上下の差がはげしく、下にいけばどうにもならない。できるのときできないのがいつしよになっっているから教育する方もむずかしいといえます。

藤原 私のゼミについても優秀な学生と余り勉強しない学生がいるでしょう。これをまけてやるわけですからやりにくい。鈴木先生の方はいかがですか？

鈴木 そうですね。勉強という点だけですけれどもゼミでも一方ではレポートも出すし努力もしているが一方では出てこない。出てこないから関心がないかというところでもない。学校へきていても教室にはいない学生がかなり多い。その点、われわれとしてもどう把握し、どう教育していくかむずかしい課題だと思います。

——そういうことはあるでしょうね。学生同士でもゼミの学生しか知らないから卒業して同窓会に入ってきたも逆にピンとこない。われわれだと何期生集れといえは集まるが、いまはただゼミの会として残っているようですね。それと、マスプロ教育とよくいいますが、教えられる先生方として教育の本質論からいえばどうでしょう。

鈴木 たしかに学生の数が少なくても小さな教室で教えるということとは理想ですが、新制の大学制度は、教養人を広く社会に送り出すことを建前にできている。ですから戦前の秀く学生同士にもいえることなんですよ。

増やしてほしい先生の数

——ところで浅沼先生その学生数なんです、現在一体どれ位いの学生がいますかね。経済学部と経営学部各々。

浅沼 今年は各々一学年七百と七百それぐらいです。これはマスプロじゃない。われわれもそのようにならないよう努力しているんです。

——で、全校合するとどうなります。もちろん夜学も含めて。

浅沼 全校合せて約七千ですか。

——われわれの時代と比べると数は問題になりませんね。それで先生の数は何人ぐらいです。

浅沼 いま教授数が百二十人ぐらいですね。

——先日たまたま大阪府立大学と市立大学の事務局長さんの話を聞いたんですが、府大は学生数三千人に先生の数が五百五十人、市大が学生五千人に對し八百七十人、それが早稲田となると学生三万人に對し八百七十人、ここに問題があるんですね。それに公立大学の総予算を学生一人に割ると六十万円もかかるというんですね。結局、先生一人当たりの学生数は圧倒的に私立大学が多い。これは財政的な問題で入れざるを得ないのでしょうが、結局定員の倍も、それ以上もとるということになる、どこかに無理が出来るわけですね。

大槻 ただね、この大学は、いつてみれば優秀な中小企業といったようなもので単科大学です。小じんまりとまとまっている。その点、学生

才、英才教育とはまた違うわけですね。その点、戦前の秀才、英才教育という角度からみた本質論からいえば、その理想からはずれたように見えますが、必ずしもそうではない。新制大学は、その点庶民の大学という性格を一方に持っているわけですね。

——そういうことか、本来の大学の理念という角度からいいますと、昔の旧帝大を大学院にして、大学教育は大学院を持たない大学にするということになってしまふ。これももちろん専門家をつくる建前からいえば、当然そうあるべきだと思います。しかし、なにしろ戦後の大学へ入る人数はふえて、最近の統計によると昔の中学の卒業者の数と同じくらいとまでいわれていますからね。

——これだけ大量の学生が出てくると、先程来た話じゃないが、学生と教授のつながりはゼミを除けばほとんどないといっているんですね。**大槻** そこでいろいろ考えるんですが、たとえば、広い教室でマイクを使って講義をするというようなことをマスプロ教育だとしておられるわけですが、しかし旧制の大学においても広い教室でマイク使ってやはり講義をしておったんですね。その段階ではそれをマスプロ教育だとは誰もいって

いない。ただ旧制の高等学校だとか、専門学校ではクラス編成が出来ておって、かなり小さな教室で授業がなされておったですね。今日心配されるのは、学生の数が非常に増えてきているのに、先生の数が一向に増えない。つまり、先生一人当たりの学生数が問題になってきているわけですね。これがマスプロ教育といわれるもので、ガンなのですね。ですから、先生と学生との接触というとき、まず第一に先生の数を増すべきなんです。この大学においても、その点かなり注意されて先生の数も増えてきておるはずなんです。その点学生諸君がいつているマスプロ教育はけしからん、まさにその通りなんです、まあ、小さな教室でできる講義もあれば、できない講義もある。形だけで断定的にいうのはおかしいと思います。

それとも一つ、大学の特色はゼミナールにある。ゼミを通じて先生と学生の間は非常にこまやかなのです。ところが一、二年生はゼミがない。その点学生もものたりなく考えておるようです。教養課程の科目を担当なさっておる先生の場合は、ゼミを担当されておる先生に比べると学生達とじかに直接ふれ合う機会がすくない。このゼミナール制度をどういうふうな大学の中で拡大していくかというあたりが今後の大きな課題じゃないでしょうか。たしかに司会者がおっしゃったように学生の意識は卒業してもゼミでつながっております。たとえば私のゼミは毎年度ゼミに会の名前をつけてまとめているわけなんです。その学生達は卒業しても年に一度集まるということになっている。ところが、ゼミに参加しない学生諸君は、どうしても接触

必要な先生と学生のふれ合い

鈴木 話もどりますが、さきほど大槻先生がゼミ単位といわれましたが、最近あちこちの大学で、プロゼミというのですか、一回生の時からゼミをやるといふ学校がふえてきているよう、経大でもそのうち、そういう形を取り入れた方がいいんじゃないかと思っています。

藤原 それどこかでやっていますか。**鈴木** 同志社大学、立命館大学でもやっておりますね。

——プロゼミというのはどういうことです。

鈴木 教養課程のゼミは専門の講義を通じてじゃなく、人間と人間とのつながり、ふれ合いということ、グループになる、そういうものです。

藤原 たとえばクラス単位というふうなものですね。そういうふれ合いは是非とも必要でしょうね。

——いま鈴木先生がいわれた意味合いのものを教養課程のゼミと考えるなら他にもたくさんありますね。各学級主任が勉強に関係がないけれども一応面倒をみる。**大槻** 学生諸君の悩み——経済的な問題にしても、大学の制度上の問題にしても、そういうものには学生相談というのがある、相談にゆけばいいという建前ですが、よく聞くとそこでは学生もなかなか云ってこない。云ってきたものは、もうそれで半分問題は解決しているんですが、そこで云ってこない学生に対してさらに一歩踏み出そうと、クラス単位に近い、ゼミと担任の間みたいなものを設けて学生との接触を保つ。**鈴木** その場合も、やはり一番根柢になるのは教授人員の増加ということなんですね。

出席者

大阪経済大学 教授 (経済原論)	藤原 光治郎氏
大阪経済大学 教授 (英語)	浅沼 玄 恵氏
大阪経済大学 教授 (中国語)	梅田 武 文氏
大阪経済大学 教授 (哲学)	鈴木 亨氏
大阪経済大学 助教授 (経済史)	大槻 弘氏
同窓会側	渡辺理事長、広田事務局長、世良常任理事 比企、玉岡、中村、松本、辰本各常任理事(編集)

クラブ活動の現況

学術会

経大の学術会も、先輩諸氏の築かれた土台の上に立って、参加のクラブも一五クラブとなり、日々、充実した有意義な活動を行なっております。

学術は、大学教育の重要な要素、即ち、大阪経済大学は、経済学部と経営学部を中心に構成されています。社会科学の分野を中心に学術会も、大学の現状を見る時、即ち、経済学の授業をうけても、マイク授業の中で質問、討論が全然出来ず、学問をする所としては、全たくといってよいほど、その条件を保ってはいません。その中にある、我々学生が、各クラブに同じ志を持つ各個人

が研究、討論をなし、また、学内討論や、大学祭の中で討論発表をなし、学外的にもあらゆる大会に参加し、疎外された大学教育を、我々学生の手で、一身に受けて立っているといつても、決して過言ではなく、また現実社会の中においても有意義なものとなる勉強を行っております。しかしながら、私達は、決して自己満足をしているわけではありません。経大の学術会は、経大生の全部が、直接に参加しうるような、魅力のある学術会として、努力しなければなりません。そのために第一に必要なものは、物質的基盤であります。部室が決定的に不足し、また、経済的な事情をも合わせて、我々に課せられてきます。

このような悪条件の中にあっても



我々は、先輩諸氏が、現在の土台を築いてくれたその上にさらに大きな花を咲かせ、さらに発展した土台として後輩にゆずっていききたいと思っております。

(学術会)

クラブ紹介

- ▽ 現代史研究部
- ▽ YMCA同好会
- ▽ 珠算研究部
- ▽ タイプ部
- ▽ 速記研究部
- ▽ 英語研究部
- ▽ 簿記会計研究部
- ▽ 法学研究部
- ▽ 朝鮮文化研究部
- ▽ 囲碁部
- ▽ 社会科学研究部
- ▽ 証券研究部
- ▽ 将棋部
- ▽ 経営経済研究部
- ▽ 文学研究部
- ▽ ロシア語同好会
- ▽ 哲学同好会

教育を見ていると大学へ入るまでは一生懸命勉強するが、いざ入ってしまつと、もう遊んでしまふ。トコロテン式に押し出しになってしまふ。これじや意味がないので、勉強しないものはどんどん落して、それこそアメリカ式に出る時には半分になっていたということがあっていいと思

最小の労力で最大の効果

大槻 たしかに、それは必要なことです。ただ勉強しないとするとかいう話ですけれども、勉強する場合においても仕方がかなり変わってきておるんじゃないか。旧制の高商、大学が新制大学に切り替つたあとでは学生の気質が若干変つてきている。以前だと勉強の仕方が自分の興味のあるテーマだとか、問題をとらえて聞口は狭いけれども興行きのある

う。やはりこの進級だけはきびしくやってほしいと思いますね。社会に出た場合の競争はもっと激しいわけですから。ぬるま湯に入っているような大学生活では、この切換えがうまくいかない。これは一つお願いしたいと思いますね。

ものが多かった。ですから学校の講義もほとんど出ておくとかいう形で何かをつかもうという意欲が強かった。ところが最近の一般的な傾向は各科目をまんべんなくとる。各科目についていい成績をとるようになっていく。これも一つの勉強にはちがいはありませんが、何か一つを極めようというよりも一般的な概説的な教養を幅広くつけようという気質が多

いんじゃないですか。だから講義に出る出席率がいい。授業料これだけ払っているのだから、この分だけの講義は受けんと損じゃあないかという気持がある。もちろん、そういう計算を度外視して講義にこないものもあるが、いま申し上げたような態度に変わってきていることは大きな変化だと思ひます。いい悪いは別にして―― 成程ね、そういうことはいえるかも知れませんね。

鈴木 私は哲学を教えているんですが、最近の学生は合理的になつていくというか、最少の労力で最大の効果を上げるという形になつていきます。人生問題を考えると、か、人生の悩みをつきつめるとかといったことは旧制の高校、大学生には非常に強かつたんですが、最近の学生は、そういう点では楽観的というか、深く考えないで、大槻先生のおっしゃ

クラブ活動の現況

芸術会

桜が咲き、そして散り、そのアトを追うが如くつじが咲くこの頃。わが芸術会本部とその傘下にある軽音楽部、演劇研究部、写真部、映画研究部、グリーククラブ、美術研究部、吟詠部、茶華道部、マンドリンクラブの九クラブは、この連日の五月晴れのもとで連日研さんにはげんでおります。そして来たる六月中旬より下旬にわたり阪神百貨店、大阪府厚生会館の二カ所で催す「芸術会創立十周年記念祭」を前期本部行事の主眼として猛ハッスル中です。

芸術会創立十周年記念祭は、決してエリート意識をひけらかすためのものではありません。現代において最も必要とされているもののひとつである文化的教養たる「芸術」の真髄を見極めんがため



音楽の方面から、劇の方面から、また映画、写真の方面、はたまた絵画、茶、華の方面から、人間一匹の力では到底手が届きそうになり「大いなる芸術」に「グループ」を形成し、その上に九集團をもつて立向かうというわけです。学外で催そうという計画も伊達や酔狂ではありません。世間の人達にわが経大芸術会を愛してもらわんがため「身近かな、愛される芸術会」にならんがためのものなのです。ただこの十年、九つのクラブが一様に十年を迎えたわけではありません。一クラブ十年になるものもあれば「グループ」を成して三、四年のクラブもあります。しかし、芸術会十周年に際して一周年を迎えるグループはありません。少なくとも三、四年間積み上げたもの、探究したものを発表せんとするものです。私たちは若い、それに芸術に対する愛情がある。これだけは現在自慢できます。『若いことに過ぐるはなし』との標語を掲げ、芸術一途に進進いたします。どうかよろしく。

(芸術会)

- ▽ 軽音楽部
- ▽ 演劇部
- ▽ 写真部
- ▽ 映画研究部
- ▽ グリーククラブ
- ▽ 美術研究部
- ▽ 吟詠部
- ▽ 茶華道部
- ▽ マンドリンクラブ

たまんべくなくどの科目もなるべくいい成績でという形で、あれもこれもやろうとする。つきつめた気持というものはあまりありませんね。

大槻 私は、そういう何かのものをまとめてやろうという学生の場合、表面に出てくるのが自治会活動とか、学術関係の研究とか、そういうものに積極的に出ていると思うのです。ただその出方が以前に比べアカデミックじゃないという判断が下されるかもしれないが、彼等の考えている真摯な気持は、無関心にマージャンにふけているのと比べたら立派なものだと思います。私は彼等なりによく勉強していると思っております。

ある面から見れば現代の学生は不幸といえるかも知れませんね。じっくり本を読み、物を考える社会的な雰囲気がない。

鈴木 そうですよ。うちの大学のトップクラスの学生諸君は非常にすぐれたものをもっている。ただいまの学生諸君の不幸なことは世界情勢があまりにも激しくゆれ動いているものから、それに直接社会をかえなければならぬという使命感。そういうものに激しくぶつかっていかなければならぬ社会情勢があるわけですね。それが実践という形でい

急速によくなつた学生の質

―― 結局、そのトップ級の数を増やし、どうにも手のつけようがないところを少くしていくということですね。それが総体数の上で逆になる傾向がある。

大槻 いや、必ずしもそうじゃありませんよ。ここ三、四年くらいは学生諸君の質は急速度によくなつてき

い資質をもつたものが自治会活動でどんどんやらなければならぬ情勢にある。したがってゼミなり、講義なりに出てくることなくなるといふ点で、私からいえばそういう学生諸君はかわいそうでもあり気の毒です。それがもっと突込んで理論をたぐわねば秀れた行動力なり判断力がさらに出てくるんですが、とにかく実践というものが要求される。

なるほどね、われわれもいまの学生諸君を或る一面からのみで見るわけで、じかに接しておられる先生方からみれば、彼等も彼等なりに立派にやっているわけですね。われわれでも実際にこの学園を訪れ、まづ驚くのは学生の絶対数が増えたといふこと、それと彼等の行動力です

ていると思ひます。その判断の資料としては、一つは高等学校から見た見方が参考になります。私は浅沼先生のもとで教務の方のお手伝いをしております。そういうことでよく高等学校をみたり訪れたりしているわけですが、昨年の十二月は和歌山、三重の両県にいき、一昨年は滋賀と

岐阜へまいりました。そのなかで出てくるのは大阪経済大学は、最近はいりにくくなった、ということなんです。高等学校から入った学生がほとんど落ちた。いったいどういふ学生をもっていったらいいかわからなくなった。これなら大丈夫と思っても落ちるということをよく聞きました。そこで駄目だった者の入試成績を見せて話しますと、それじゃもう少し上の方をもっていかうということでは、対策を練られる。大学の評価という問題になってきますと、どういふ要素が大学の評価を上げていくいろいろな問題がありますが、いずれにしても上がってきていることは確かです。学生諸君の質の問題はよくなくなってきています。

大学の評価が上がったということもあってか、昨今の入学試験の競争率は非常に高いものがありますね。今年の入学志願者は一体どれ位でしたか。

浅沼 一万一千をちよっと切れまし

この四月から大学院も

それから目新しいニュースとして大学院の設置の問題がありますね。藤原先生これ、この四月から。藤原 ええ、この四月からはじまります。

大槻 つまり、この大学の研究体制が急速に整ってきただけということですね。大学院も旧制の国立の高商には全部ないでしょう。ここがいち早く大学院をつくったのは、先程の話じゃないが、それだけ高等学校がみているという側面が別の形で出てきておるんじゃないかと思えます。

旧国立高商和歌山、彦根、福

た。経済と経営の定数はいくつです。

浅沼 二百と二百五十。

倍ですか。われわれの時代と比べると問題になりませんね。果していまの時代に私が受験してたらどうだったか(笑)

これだけの競争率で難関を突破してくるんですから、本質的に弱い人間が人づくるとは思えない。

大槻 そうなんです。

試験の内容はどうなんですか

浅沼 試験科目は英語と国語と社会それぞれ二〇〇、一五〇、一五〇という点数ですね。

ついでに合格点は。

浅沼 まあ半分以上ですね。

私のきくところでは、英語がむずかしかったようですね。英語が二〇〇点だと、やはりこれがもっとも重要だということですね。

浅沼 そういふことです。

島ですか、この大学院の場合は、文部省がつくらせないというのでは。

大槻 いや、そうじゃありませんよ。つくるうとしても、つくれないんです。地方の国立大学の場合これを整理し、再編成しようとしていますがそういう中で大学院となると、こと人事の問題もからんできまうし、いくら予算があっても微妙な問題があるんですね。

さきに経営学部が出来、今度また、大学院が設置された。ほんとうにわれわれ同窓生もうれしく思っております。この上は、さらに教育

内容に力を入れていただくことですが。つぎに、少し就職の問題がどうなっているか、藤原先生この問題はいかがでしょう。

藤原 七、八年前に就職課を就職部にしていただきました。それまでは不景気ということもあり、また学校の名前も今日ほど売れてなかったという点もあって就職はあまりよくなかったのですが、それ以後先輩の方のお力添えもあって年々よくなり完全就職、あるいはそれに近い成績をおさめております。一昨年あたりから不景気になりましたので、昨年春頃には若干心配しておったんですが、今年の求人数は千五百社以上、卒業生は千人足らずということでありまして、毎年二、三割は縁故で就職し、それ以外は学校の就職部の窓口を通じて就職するわけですが、二月末で九十七、八、ほとんど決っております。今後とも、この面ではますます同窓生各位のご協力もいただかねばと思っておりますが、この座談会「澱江」の紙面を借りてよろしく願います次第です。

先生から同窓会にのぞむ

では、時間も相当たちましたので、最後に同窓会に対するご要望があれば、一つ卒直にお願いしま

す。大槻 同窓会に対しては、いろいろいいことがあるんです。しかし

つづけられている。(編集部)

独立総部

本校には体育会、学術会、芸術会、のほかに独立総部がある。これは以上の三つの会に属さないものが包含されているが、それぞれに特色のあるものばかりである。

大学という一つの社会の中でマス・コミの役割を演ずる大学新聞とCBS放送局、これはそれ自身が学園の現況と歴史を語るものにはかならないが、それなりに責任も重大であり、価値ある仕事として懸命の活動がなされている。

また応援団、ワンダーフォーゲル部についても、他校においては多少の批判なきにしもあらずだったが、本校にはそういったものは皆無「人間形成」に真しな努力が



- ▽ 新聞会
- ▽ CBS放送局
- ▽ 応援団
- ▽ ワンダーフォーゲル部

クラブ活動の現況



過去三十余年間に在学した幾多のOB諸氏の創造的な体育会活動の展開は、本学における運動サークルの飛躍的発展の土台を築いて下さいました。

私達は在校生は、大学のクラブ活動においては、単に勝利を得るため、または、趣味、娯楽にとどまるという表面的なものはなしさではなく、厳しく、規律正しい団体生活を通過して、無限の鍛錬と健全な精神を養う人間形成をめざし、日夜、スポーツにひたむきな情熱をかたむけております。

現在、体育会には、武道五部、球技十部、その他八部および二同好会の計二十五のクラブがあります。

とりわけ、ラグビー部は、関西第一リーグに昇進し、闘志を燃やし、全国大会準優勝と輝やかしい成績をおさめましたし、カヌー同好会も、全日本ジュニア部門で準優勝、世界選手権出場第一次予選を第二位でパスしました。そして、空手道部の南部君は、堂々と

フランスに遠征、指導中ですし、卓球部も韓国遠征で圧倒的勝利をおさめる等々あげればきりがありません。立派な成績をおさめております。

(体育会)

- ▽ 空手道部
- ▽ 拳法部
- ▽ 剣道部
- ▽ 柔道部
- ▽ 合気道部
- ▽ 硬式野球部
- ▽ 準硬式野球部
- ▽ 硬式庭球部
- ▽ 軟式庭球部
- ▽ サッカー部
- ▽ ラグビー部
- ▽ ハンドボール部
- ▽ 卓球部
- ▽ バスケット部
- ▽ バレーボール部
- ▽ 陸上競技部
- ▽ バドミントン部
- ▽ 自転車部
- ▽ 山岳部
- ▽ アイススケート部
- ▽ ゴルフ部
- ▽ スキー部
- ▽ カヌー同好会

体育会

かげでいっていったら、これはしやうがないので、機会があればとおったんです。たまたま今日こういういい機会がございましたので喜んで出席させていただいたのですが、この大学をどうしたらいいか、これにはいろいろのやり方もあり、各人各様の考え方があると思います。まあ、同窓会として第一に考えていたかったのは、大学の現状がどうなっているのかを的確につかんでいたきたい。そのためには、在学生との交流も必要だし、われわれ教育の担当者ももっと膝を交えて話し合える機会が必要だと思います。おそろく同窓会のトップクラスの人達は、大学のことをお聞きになっていることだと思いますが、私はパイプが一つであってはいけない、多いほどいいと思う。各層の考え方を聞いていた

だいて、その上で判断していただくことが大切じゃないか。だからまず、どういふ形で膝が交えられるか、それは別にして、そういう機会をお互いにもつよう心がけたい。

つぎにゼミナールの問題が生まれ、学生数が多くなり、また、ゼミ中心の形をとっているために、大学卒業生のもたまりがかなり変則的になってきている。高商時代のように、何期生集まれといってもピンとこない。それに加えて、先程お話にもありましたように、戦後の若い人達の考え方が変わってきている。そういう点を考えますと、同窓会の構造は相当変わってきているようです。これに同窓会の方々はどうのよう、順応しようとしておられるのか、変り方に対してどういふ方向に同窓会をもっていくとなさっておられるのか、このさいははっきりした見通しが必要じゃないかと思えます。たと

えば、現在は、入学した時に会費を払ってあとは終身会員の形をとっているため、同窓会それ自体の会計は安定しているかもしれないが、卒業生をひきつけるサービスに問題はありませんか。会費を払わない卒業生から毎年会費を徴収するというやり方をすれば、もっともといままでのやり方をかえて、彼等に訴えるものがなければ、会費を払いませんよ。そういう点では逆に卒業生全体に対して行き届いた細かい配慮が欠けていられないか。

これは総会にもいえることで、もっと魅力ある総会にして、会場にはいり切れないような状態にもついてもかなければならないということにもつながってくると思えます。特に同窓会の主要役員である方々は、この大学の理事会に出席して理事会を通じて大学のいろいろなことをお聞きになっていると思うのですが、理事会の考えることは経営の問題が中心です。その中でお考えになっていることと、教育そのものをどのように結びつけるか。学生が語学に弱い問題も、国立のように定員だけで二百人なら二百人としてあとは全然とらないということであれば、国立に比べて負けない状態だろうと思えますが、悲しいかな経営の問題がからんで学生が増えていく。教育が経営によって犠牲にされている。これは一面やむを得ないことで、私学一般の問題とすれば仕方ない。がしかしこの学生でもし勉強しないものがあり、語学の力が弱い、社会に出しても恥しい学生があるとすれば、根本に経営の問題があるということになります。そういう経営に関係しておられる役員の方々は、もう一つここで勉強していただいて、ここで学ばれた

自分達の経験を生じてわれわれの生々しい声も聞いていただき、その中で教育効果のあるような立派な先輩が出来るよう、一つ方策を見出し、いただきたい。口はばったことをいうようですが、ただ役員としてのセンスだけで大学をみられ、或は大学が運営出来るとお考えになっておられたら、早稲田大学の問題が起きますし、いろいろ類似した問題が出てくると思います。そういう問題に対処するかまえ方をこのへんでいろいろ考えていただきたい。それがとりもなおさず言葉はきついようですが、同窓会の体質改善ともなり、さらに一歩前進するための方法となると思います。

いや、ありがとうございます

藤原 全体からいいますと、たしかにパイプが少なすぎます。学校の現状をよく認識してもらったうえで考えていただかないと、非常に偏したものが出てくる。これはいえませんね。

鈴木 大槻君のいわれたことにつきるわけですが、今度の学館の問題にしても、授業料問題にしても、早稲田のようにならなかったということ、早稲田の場合は恐らく私のみるころでは、学生部がパイプになっていなかった。直接理事会と学生とが対決する形になっている。それから新聞にも出ましたが、教授会がなかった。

本学の場合は、三者懇談会があっ

てかなり学生諸君の意見も、協議会の意見も通したため、そこまではないかなかったといえるのですが、同窓会の場合にも、日頃から学生諸君の意見も何等かの形で聞くということを積極的にやっていただきたい。三者懇談会に出ても学生達のいうことに無理からぬ点もあるわけですが、そこで学校経営の問題で教授会がはさまれて非常に苦しむことになる。学生達にも単に勉強しろ、学則にしたがえというこれだけでなしに、同窓会にも出てもらって、四者がいつでもパイプが通するような形で日頃接触していくことが大切だと思います。

梅田 前からいっていることなんです、大学になってからも大量の卒業生が出ています。今度の同窓会の

的なものがあります。

勿論、社会問題の一つでもある大学のマス・コミ化は、本学といえども到底まぬがれ得ませんが、それでも古き良き伝統をバックにした学問の良心は、全学を挙げてその防衛につとめ、悪循環を断ち切ろうと必死に努力しています。

現在、学生数五千名、夜千名と戦前の母校と比較するとき、時代の推移とは申せ、よくぞこまで立派になったものと、改めてその発展の歴史に感慨をおぼゆるものであります。

同窓の諸兄姉よ、あなたの母校が、こんなにも立派に成長したことを一度ご自分のその目でみて頂きたい。そしてのびゆく大阪経済大学を、今後とも変らぬ母校愛でそっと見守ってゆこうではありませんか。

役員改選でこうたし人達も出てきた。それはそれでよいのですが、反面先生達も若い先生方にもっと同窓会の常任理事になっていただいて、その人達の考え方や意見をきくことも必要だと思いますね。

大槻 同窓会の部屋をつくられるとき、いままでは大きな規模で募金されましたが、先生達はほとんどそれに関知しなかったで、私のゼミの者からこういう通知がきたがどうしたらいいか、という話があった。時も積極的な返事が出来なかった。事前にもっと連絡して、先生達の協力をおがれたらよかったと思う。大学自身今、大きく変りつつあると思います。同窓会でも、いち早くそういう点をキャッチされて大学のためにご援助いただければ幸いですし、われわれも同窓会にお役に立つことであれば何でも協力したいと思います。

渡辺 いや本日はまことに結構なお話をうけたまわりまして、ありがとうございます。ご指摘を受けた点多少ぬかっていた点もあり、今後の同窓会の運営にあたっては、大いに心がけてまいりたいと思います。同窓会にとりまして今日この会合は一つの大きな進歩だと考えます。

なお、今後とも一層のお力添えをいただき、この同窓会が、また大学が発展いたしますよう、よろしくお願いいたします。

— それでは、まだ茨木市の十四万平方メートルの用地の問題や、人事の問題等ききたい点もたくさんありますが、結論らしきものも出たようなので、この辺でおきたいと思えます。長時間まことにありがとうございます。

(文責 編集部)

学園の現況

をたどりました。

黒正先生が、多くの師友の援助のもとに、昭和十年九月「昭和高等商業学校」を創立されてから三十年。その間、戦中戦後のしばらく「大阪女子経済専門学校」「大阪経済専門学校」と推移して、昭和二十四年には、新制による「大阪経済大学」にまで成長しました。その後、古い伝統のうえにたった学風と、学者達を中心とした良心的な経営で、経営学部の新設(昭和三十九年)をみるまでは、全国的にも珍しい付設校を持たない単科大学として、戦後のインフレ時代から十数年間、幾多の苦難と闘いながら、着実に発展の道



明るさいっぱい。若さがいっぱい。(新校舎と掲示板に群がる学生)



旧校庭に建ちならぶ近代建築の粋を集めた学舎



黒正先生の胸像と旧校舎

立派な図書館で勉強する学生たち



大きな階段教室に学生もいっぱい（哲学の授業）



創刊号の「澱江」を拝見したところ、一・二・三回卒業生の記事に開校当時の模様が述べられているのを見て、私も当時の記憶を呼び起してみた。

浪華高商設立の不正事件で、同校が廃校するかどうかという問題が発生したので、文部省はその再興について当時の大阪市立商科大・学長河田博士の尽力を頼わしてきた。河田学長は直ちに当時同大学の教授であった私に相談があり、私は当時祖父の死亡によって、たくさんの遺産を擁した京大教授黒正博士に再興資金を譲出して、同校の校長になることを勧めに行った。京阪電鉄の社長有田邦敬氏は校地を寄付した関係上、同校の再興を熱望し創立者徳永氏との接衝に当った。遂に各方面の了解を得て再興することに決定し、校名を昭和商高と改め、校長に黒正博士、財団の理事長に有田氏、小生は常任理事兼教授となつて、学務ならびに財務の掌に当った。今日の発展をとげた大阪経済大学のそもその創立功労者は河田、有田、黒正の諸先輩とその間のとり纏め役をつとめた私との四人であったということが出来る。その四人のうち三人まで即ち河田、有田、黒正の先輩はすでに故人

開校当時の思い出



菅野和太郎



随

想

となり、私一人が生きながらえている。誠に感慨無量なるものがある。創立当時の再興事情を思い出すままに書き記してみた次第である。

(衆議院議員 本学教授)

母校を万国博あとに



西川清治

上新庄は戦時から戦後にかけて色々思い出があつてなつかしい。今の経大にあるかどうかは知らぬが、当時の弾圧下にささやかなレジスタンスの精神を胸にひめた学生諸君の集りでもあった『国際問題研究班』の目付け役を、現在の立命大の建林教授よりバトンをわたされ、新任早々でまだ教師つれのしない、若さと美貌？の持主であった私としては、研究やコンパに学生諸君と一緒に張りきつたものである。また敗戦直後の民主化のハネムーン時代には、ことに十三回の卒業生諸君と暮したのも、今はなつかしいばら色の追憶となつた。

この思い出多い学園を去って大市大に移った罰があつたのか、それからの二〇年は散々であった。これにひきかえ昭和学園は年々充実し、学部の増設・図書館・学舎の拡張をみ、さらに今後新校地の購入や大学院設置等々が企てられているとき、わがことのようにこのこばしい限りである。

このようにわが心のふるさととしての学園への愛着と、悪くいえば現職員でないという無責任からの放言として聞きすてて戴いて結構なのだが、学園の一層の発展、拡充を願うあまり、一言せざるをえないのは次のことである。

うづめ草



柏木得二

学園の生命は、もちろん真理の探求にあるが、だが同時に設備と環境も無視できない条件である。幸い私が奉職する職場よりも立派な図書館・研究室・教室・学生会館が続き建てられつつあることはうらやましい限りだが澱江には学園のための空間の限界は絶対的ではなからうか。将来の一大飛躍のためには、昭和商高からの歴史と数々の思い出を秘めた土地ではあるが、ここに過密投資を重ねるより、むしろ万国博跡あたりに、新天地をもとめるのは如何なものであろうか？

(旧職員、市立大学経済学部教授)

○黒正さんの工業立地論と農民一揆(まんだん)

○寺屋さんの弥生式文化と卑弥呼ものがたり(名論?卓説?)

○山村さんのジュリアス・シーザー(ザス!!ブルータス!!!)

○久野さんのドイツ語(二年間のみにて残念デル・デス・デン)

○青山さんのシュンペーター(トウトウわからぬまま)

○エス・ハツラー(十八娘の純情と声〓顔は別)

○上田さんの日本産業論(シユモラー同様チンブンカンブン)

○内多さんのハーディ(声いる〓岩波文庫)

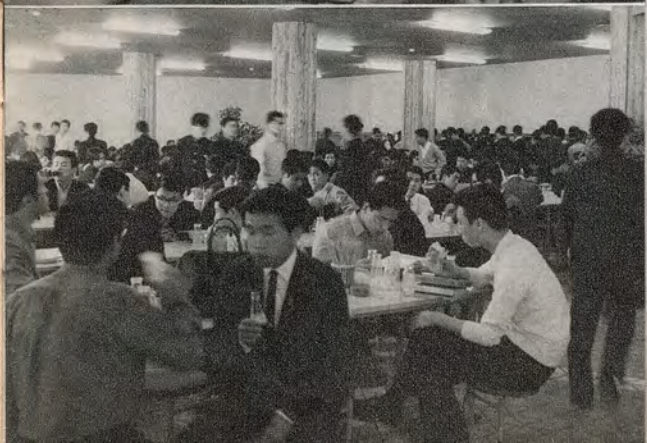
学生会館とその内部

書籍売場

売店

喫茶店

学生会館



随 想

- 高岡さんの経営論（本にないこと許りでオージョウセリ）
- 菅野さんの経済史（朝が早いので閉口、苦虫ツブシタ額）
- 西島さんの商法（ねむくなる許りでなんとなく良となる）
- 高木さんの経済学史（ホットニュースで脚光を浴びて優）
- 片山さんのクリームまんぢゅう（新アラビアンナイトより）
- 原さんのスティブンスン（フランソワ・ヴィヨンの伝法肌の訳）
- 菊田さんのフックスと統計学（博識強覧に呆れるばかり）
- 平野さんのアンデルセン（これでドイツ語がパー）
- 渋谷さんのソクラテス二代記（西洋の高等講談）
- 荒牧君の「パセリを食べると巴里の味がする」話
- 松井勉君の名句「せせらぎや、しぶきのとどく藤の花」にキョータン（今は作句いかに？）
- 田辺君の朱子と陽明の比較論（ウヤムヤ）
- 山崎一郎君のマルキシズム体系の完成（トウトウシャッポぬぐ、但し当時のハナシ）
- 平八郎君の昼寝のイビキ（今や某社の大黒柱）
- 宮崎、高石、河内の三君と天満の喫茶店で屯したり花背へスキーに行ったこと（三者健在）
- 松井、朝倉、畠田の三君と神戸茶房でねばった
- 沢江君とアラスカで食事したこと（ミスター・カモ）
- 箱島、柴田、内田の三君の端正な生活態度
- X君の姫買夢枕下（美に興味津々たるもの）
- 運動会の余興（竹内君、元田君と寺倉、藤岡の二君で勉君が演出してくれたこと、三浦先生の似顔を幕に張っての大熱演おしくも二等であったが、実際は一等に成るべきものだったとは後で聞いた楽屋はなし）

母 校 の 今 昔



山上 善 彦

光陰矢の如しといわれる通り、母校もすでに三十年の星霜を経ました。自分達は毎日上新庄の駅より瑞光通りのほこり道を元気に先生方と一緒に歩いて登校したものです。その

○中島さんのラジオ体操（イヤイヤ三年）
○榎原神宮で勤勞奉仕（サボッタ時間が多し）
○米津さんと草ムシリ（時間の長いこと）
○テンブラの二時間目の食事（教室講義中三時間目は予定通り睡眠の由）
○いやはや次々とゴーケツ、モサ連がおりました、正しく「××や、つわものどもが夢のあと」ですなあ、洵に天下泰平ではありましたが。これ以上のゴシップもストップをかけませんと当りさわりもありますのでこれにてチョン、妄言多謝!! 藤原さんには個人的にお世話になって未だにお礼にも参上しておりませんし、土手、松井の両君と松木君にも迷惑をかけたままです。
「商都の東北澱江に」と旧歌の通りの学園も大阪経済大学とマンモス化しましたが当時のボクは平安食堂のシチューと飯が唯一のタノシミであり（二十銭）大抵は校内食堂の十五銭、金のない時は生どんで凌いだものです。私も早や五〇に近くなり、眼はかすみ、足許も頼りなく歯が不自由となりヴィヨンの詩にある老人の如く、まことに衰残おくあたわずの感がいたします。
荷風の「紫陽花や身を持ち崩す庵主」をしみじみと味わいつつ、鴨外漁史の「なかじきり」を読みかえしている次第です。
（第六回卒業生）

当時は駅前も家もほんのまばらで、駅前より学校に向ってすぐ右に出ると、学校に通じる広い道があり、その側を小川が流れていた。小さな魚が泳いでいるのも見られた。
駅前もほんにひっそりしたもので、ただ高商の生徒達が登校、下校の際はぎやかに通ったものでありました。当時は服装も本場に専門学校生徒らしくきちんとして、サージのズボンも折目正しく、帽子も黒の蛇腹（モール）を巻き、昭和高商の帽章もはっきりと、本当にスマートな好感のもてる服装をしていたように思われました。

しかし昨今は瑞光通りの人家のたたずまいも多くなり、立派な繁華街になり、付近には製造工場も建設され、団地も出来て、いよいよ大阪市北部副都心の一部に発展しつつあるように考えられます。近時の学校付近の発展には全く目を見張るものがあります。

学徒の頃学校教練で演習をした所を、今は日本国有鉄道が特に世界第一を誇る新幹線が校舎の西側の高架の上を超特急「ひかり」・特急「こだま」が三時間足らずで、東京大阪間をぶっ飛ばすようになり、上り下りの乗客を毎日光の如く早く乗せて過ぎゆくさまが、母校の窓より手に取るように見られます。

本当に三十年前の学徒の頃を思い出すと、今昔の感にたえないのであります。しかし変らざるものは何といても母校の学舎（その後増築されておりますが）と藤田学長先生ならびに大北・奥村・藤原・浅沼先生その他の諸先生のお姿であります。同窓会総会または役員会等に出席のため、母校を訪問して現在社会において大活躍の同窓生の皆さんの御姿を眺める時、学徒の頃がそぞろ思い出されて来ます。

さらに当時学んだ学友達の様子而走馬灯の如く思い出されて、何となくなつかしく感ぜられるのであります。

母校も今や新制大学として経済・経営・教養の三部部、また本年四月より大学院も設置され、名実共に全国に誇り得る大学として発展しつつあります。これも一つにかかってわ

が学園の理事者・教授・学生・同窓生の一体となった、たゆまざる学園発展のために尽された努力のたまものにはかならないのであります。なおさらにさらにわが学園は大いに発展することを確信しております。何卒同窓生の皆さんも後に続くであろう若い後輩のために大いに御活躍あらんことをお願い申し上げます。本稿を終ります。

（第二回卒、同窓会常任理事）

澱江について



前田 悦 子

このたび、同窓会理事会の面目を一新されさらに編集部に新しい息吹きを加えられて、新編集方針のもとに「澱江」が内容豊かにスタートしようとしていると伺い、心から賛意をお贈りしたいと思います。

つきましては私のささやかな願いを編集方針の中にお含み頂ければ幸いと、ここに記しました。

一、定期的な発行にして頂きたいこと

今までの澱江を二、三度手にしたことはありましたが、どれもその時の特別なニュースのための発行、特集的な意味のみの発行であったように見えて来ましたが、これからは同窓会の機関紙として、特集的な記事は勿論のこと、一貫性をもった定期的な発行にして頂きたいと思ひます。年に何回発行せねばならぬというものでなく、編集方針のなかで御計画頂ければ結構かと存じます。

二、記事についての私見

記事にはその内容により定期的なもの、特集的なもの、と大別出来ると思ひますが、定期的な記事の方には同窓会の現況と、母校

の現況、現在の新制大学としての現況を絶えず取扱って頂きたいと思ひます。母校がここ数年間、どんな発展の仕方をしたのか、ということ、果してどの位の同窓生達が知っているでしょうか。知らされているでしょうか。新編集委員の客観的な把握力、広角的な批判力で編集して、澱江の記事にして頂きたい。卒業後、母校を訪れる機会にも恵まれず遠隔地の卒業生にとって、澱江を手にして絶えず母校の発展しつつある状況を知ることが、どんなに大きな心の支えになることでしょうか。

特集的記事には、例えば昔の卒業生と今の卒業生との縦の交流を盛込んだ記事を企画されてはいいが、旧専門学校時代（戦前、戦中戦後にわたる）の卒業生と新制大学の卒業生とは随分と考え方が違うと思ひます。例えば昨年十二月十日に開かれた理事改選理事会（理事の一人として出席しました）での雰囲気、昔の十数年前のものとは比較にならない位異様な緊迫感のあるものであったのに驚いたのですが、古い層は同窓会の方向付けにも多分に企業内での重役対平社員に如く年功序列型を強く主張され、若い層はこれに対して同窓生としては同じ立場であるとしてかなりの抵抗を示し、理事の選出方法に長時間をかけたという始末でした。これは何を意味しているのでしょうか。古い昭和商時代時代の卒業生、大阪経済専門学校の卒業生と、現在の新制大学になってからの卒業生とは、世代が異なるのでしょうか、時代の相違、世代のひずみから来る相違とでもいうのでしょうか、母校に対して、同窓会そのものに対して、でも夫々受止め方が違うということを、あらためて皆が再確認しあう必要があると思ひます。その異なる層を包含している同窓会の運営にはそれ相応のまともな方が必要ではないでしょうか。そのコミュニケーションの場として澱江が活動してほしいと思ひます。

澱江とは少し離れますが、過去度々、職業別名簿はないのかと同窓生から問われたことがあります。過去の踏襲としての括一的な名

「互笑会」のこと



陰 下 嘉 典

同窓会誌「澱江」に何か書けということである。そこで同窓会にちなんで、われわれ同期生でつくっている「互笑会」のことを紹介し、同窓生の親睦のあり方にこんなものもあるということを知っていただきたいと思います。

互笑会とは、互笑会とも書く。つまり親睦のための笑う会である。会員は風間先生は別格として同期の松島、酒井、三村、松本の四君と私を含めて五人ということで、互笑会とはなった。

この澱江の先生達との座談会の中にも、最近では同窓会といっても、それがゼミナール中心に変わってあるというお話があったが、この互笑会の発端もそんなところにある。

われわれのゼミは風間先生、つまり「民法」ということになる。経済専門学校でゼミが民法とはちょっと変わっているが、いや実のところ、われわれグループには正直なところ勉強の出来るのはあまりいない。それよりも、むしろ学生運動にこって、その道のベテランぞろい。さああの頃（戦後すぐ）五、六回もストライキをやっただろう。その当時の学生補導課長が風間先生、何かことがあれば先

（第十三回卒、同窓会理事）

随 想

生と激しくやりとりしたものである。

ただ、そうはいうものの、当時の先生とわれわれの関係は、現在他校で見られるような尖鋭的なものではなかった。学生運動だとか、ストだとかいいながらも、両者とも腹をすかしてヘトヘトになっていた頃である。

それと当時わが校にとっては大学昇格という難問もひかえていた。思想的な問題は別に、この方へも大きな精力をついやしていた時分である。そうそう無茶も出来なかった。こういう多少のなれ合いが、われわれを当面の相手である風間先生のゼミになだれ込ます原因とはなかったのであるが、その魂を見すかされてか先生には随分やかいかいになったものである。

でも、このゼミは愉快だった。先生にしばらくられるにはしばらくが、民法の勉強もさることながら、人間教育だけはじっくりやってもらった。ゼミの仕上げは京都の先生宅。すぐきをご馳走になりながら、何かと教つたものである。その当時、私の膝の上でおしっこをした坊やが、今ではもう大学生というのだから月日の経つのは本当に早い。あれから、もう十七、八年になるだろうか。この互笑会は、いまでも春秋二回の例会をもっている。

例会の主な行事はマジジャンである。しかし、ことわっておくが私も学生時代は麻雀のマの字も知らなかった。私だけではない、四人のメンバーも同様である。

卒業後、まず風間先生が手ほどきを受け、われわれが就職後先生にまたこれを教わった憶えると、またこれほどおもしろいものはない。

それ以後随分とやったものである。それでも、定例会は月に一回。「雀」が終ったあとは一パイである。酒の強いものはあまりいないが、全員至極陽気である。唄いかつおどった。こんな状態が二、三年もつづいたろうか、そのうちに、だんだんと肩書に長という字がつきはじめるというはなくなる。月一回が二月に一回に二月に一回が三月に一回、さらにそれが春秋ということになるのだが、減

れば減ったでそれだけに合った時の楽しさはまた格別である。

ただこの会の変つていところは誰が欠けてもいけないのである。一人支障が出来れば延期ということになる。

また、この会には、いつの間にか不文律が出来た。これは長い間に自然とそなわったものであるが、第一は「人の欠席裁判は絶対にしない。そのひまがあれば、ワイ談をやる。」第二は「お互同士の経済的関係は絶対でもない。金銭のやりとりは会費以外はやらない。」これをやるのと得てして友人の中がますますなることがある。第三は「時間厳守である。」遅れると一分十円の罰金がかせられる。

といったことで、今日まで連綿とこの会は続いているが、私は本当に自分ながら楽しい会だと思っている。

学生時代は「よく騒ぎ、よく騒ぎ」、今日は「よく遊び、よく遊び」、まことに申し訳なく思っているが、長い人生、やはり心の友は必要である。学窓を出てから十七年、まさに十年一日のごとに交える友、これをもっただけでも幸せだと思っている。

(第十六回卒、同窓会常任理事)

「ルネッサンス・エコノミカ」

―戦時中経済学徒の手記―をよんで



中村美智子

表題の本はわが同窓十回生の竹内三郎さんが昨夏自費出版されたものです。私はこの書をよんでまばゆい感動をうけました、それでこの本の紹介を少ししてみたいとおもいます。

その内容は、冒頭にルネッサンス・エコノミカと題された短いエッセイと、昭和十八年

九月より十九年九月までの約一年間にわたる

「蛙声」と題された日記と、戦後にまとめられた「経済学的思惟と人間」の論文より成っています。詳しくは著者が序文でいわれているように「若い性の懊悩に耐えつつ、経済学のカオスの中に首を突っ込んで、次第に自分の課題を見出し、真正直にそれを追求し思惟を進めて行く過程が――学友のほとんどは軍隊に行つてしまひ、残された者はほんのわずかで次第に厳しくなつて行く思想統制の中で、私はひそかに兄の残してくれてあつた唯物史観関係の本を、家で夜遅くなつてから、押入の上の天井からおろしてよみ、翌朝そつと元の天井に返しておくという生活、この日記はそういった末期的な戦局へ突入して行きつつある日本国内にあって、禁断の書を読みながら当時経済学の方面で喧しくいわれた「主体性」という問題を「人間」という側面から思考を進めて行く過程が、そしてその思索をとりまく断章と生活が書きつづられて」いるのです。

青年が人生の門口に立つときただでさえ重荷によるめき悩むであろうとき、一つの世代が逢着した時点、それは知性の頽廃と、死という苛酷で激烈なものとの嫌応ない対決という状況であつた。著者はこの状況を引受けながら決して状況に埋没せず自己の世界を、鋭い感受性と高い知性で確実に充実させ燃焼させている。そこには感傷や悲壯感などみじんもなく、自己にきびしいその姿勢は時代を超えて今日にも鮮かに私達に示唆を与えてくれる。入宮の日時も間近になつた巻末の日記の一行に、さりげなく「人類」という意味に於いても、又個人としても「人間」はいつまでも不完全でありたいものだ。少くともそうである、いつも思っていたものだ」と、人間の可能性をうたいあげている、私は驚嘆した。紙数の制限をうけているので意をつくして書きえないが、同窓生諸兄姉、在校生の諸君に是非この書の一読をおすすめることによつて、私の未熟を許していただく。

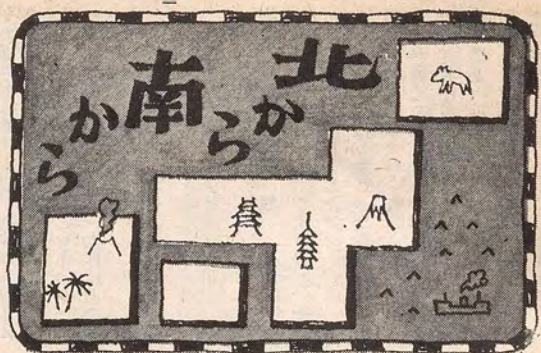
(第十三回卒、同窓会常任理事)

アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿により無さく抽出で選んだ方々です。

といっても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①瀬江についてのご意見、②同窓会についてのご意見、③はあなたの現況をお知らせください、ということアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。

もとより、同窓会会員は全国各地、北は北海道から南は九州鹿児島にいたるまであつて、それぞれにご活躍中ですが、これはその近況です。



第一回 山下三吉

職場の状況を紹介します。小生は御西島製作所生産管理部に勤務しています。当社はポンプの世界的メーカーである西独K・S・B社と技術提携をし、優秀なポンプ製作をしています。十一月四日口径二、〇〇〇以上の大型ポンプの試験場の起工式がなされました。同窓としては2部の昭和39年度卒、塚島昭治郎君(生産管理部工程課)昭和40年度卒、筒井博幸君(営業部)の両君が活躍しています。尚生産管理部には3名の者が経大2部に通学しています。

第二回 中島春雄

当時の現役部員の熱意に動かされて、当初は一週一〜二回程度と軽い気持ちで引受けて、昭和三十三年の春から母校野球部の指導を始めてから、今年で九年目を迎え、十年一昔とか、いまだながら歳月の流れの早いのに驚いております。近畿大学リーグに所属し、最近はどうにか、万年二位の汚名も返上し、今シーズンで四度目の優勝を達成しましたが、先年関西大学野球連合が結成されて、関六入りの機会を与えられその実現に努力

第三回 鈴木秀夫

本年四月に同窓会あて表記のとおり住所変更の通知を出したが本状は旧住所で発送されている。至急名簿を訂正されたし。同じこと三度繰返さぬよう。「瀬江について」私は母校の現況、将来の計画等詳細に知りたいので記事も母校関係に大きなスペースを取るよう希望する。同窓会の有力者、役員等の随筆めいたものは読みたくない。

第三回 山添進

愈々御隆盛の段お喜び申し上げます。「瀬江」については興味深くなつて、拝見させていただいております。母校隆盛のため卒業生大同団結協力一致を益々固めるべきと存じます。これがためいろいろの手段真に結構です。この辺も宮津支部をつくる話がつたたび出ていますので、何れ実現させたくその機を待つております。右御返事まで 早々。

第三回 柴野茂

同窓会に於ては諸先生ならびに同期生諸氏に会い色々お話を致すことも有りますが、平素は同窓生に会うこともなく特筆することはありません。卒業して四ヶ月動員令にて戦争に入り戦後水害復興でセメント、鉄資材等の納

第四回 平野多賀司

早いものです。もう学校を出て二十七年の歳月が過ぎて行きました。長男は社会人となり、次男、三男も来年は高校を卒業し専門学校を受験するといつて頑張つて居ります。(当落は別として)少しばかりの財があつたばかりに兄なきあとサラーマン生活を精算して家業を継いだのはよいが、「武士の商法」で仲々思うように行かず大体わかつた頃には頭には白髪が増え、気力はなくなつて来る、平凡な人間として終つて行く。だが、この平凡な中にこそ幸福があるのではないかと私は思う。

第五回 江口 嘉雄

同窓会合の通知を年一回位受けるが仕事および距離の関係上仲々参加し難い。母校の旧友の活躍、状況、消息を知り、お互に励まし合ってゆくことが母校を愛する結果にもつながり、そのためには同窓会誌「瀬江」の充実発行を切に期待する。

第五回 藤田 誠一

ホールは組んだ二人連れで混み合っていた。太郎は女将を巧みにリードしたダンスには年季が入っている。太郎である。二十一貫の身体に似合わぬ器用さを持つていた。

曲は「サーカスの歌」「酒は涙か溜息か」と続き「宵待草」の番となった。太郎の胸にはほのとした気分がわいてくる。過ぎし若き日の思い出が……。いつしか小声でメロデーに合せて歌っていた。「お上手ね、イーさん」植松がぐつと身体を寄せて耳元でささやいた。「青春日記」の甘いメロデーになると少し声を上げて歌ってみた。この歌こそ太郎学生時代の懐しいメロデーだった(歌は世に於て、世は歌につれ)司会者の名文句の通り歌は時代を思い起すオルゴールである。この一曲を携げてNHKの「新人の午後」に出演したこともあった。あの多感な青春時代……。太郎は曲の変わったことも知らず踊った。

第五回 倉垣 一郎

北海道へ転動して二年半経過し、すっかり環境にも慣れました。夏の北海道は勿論快適ですが冬もまた情緒があり格別です。

同窓諸兄の御来道をお待ちして居ります。有名な洞爺湖からオロフレ峠の近くに、級友の山田宗男君が元気で活躍して居ります。同窓諸兄の健康を切に祈ります。

第五回 榎 正雄

大陸(北支)に七年、戦後は昭和二十五年より現職に従事、平々凡々と男子二人の親として過しておる次第です。まったく少年易老、光陰如矢で頭髪に白さが目立ちこそすれ人間としての成長には未だ道は遠しとの歎きを汲々と感じております。先号にて山田、伊吹、吉原の諸兄の声を接し懐旧の念禁じがたいもので、仕事の上でたまに会するは福嶋繁君のみで、在阪諸氏の動勢はその節に知る程度。先日久しぶりに母校を訪ね校舎ならびに周辺の変貌の余りに大きいのに刮目され、二十数年前の瑞光原野を眼前に彷彿とされる世良さんの「上新庄を憶う」を改めてなつかしく拝読させて頂いた次第であります。現今市街地に埋った校舎に往時学生の手で行われた如く緑化が增強されて、商都の東北に学園の森が聳え立つことを期待してやまないものであります。

第六回 戸田 秀親

毎年最低二回以上の同窓会を開催し、同窓会誌毎年四回以上発行し会員の詳細を知らせて欲しい。

第六回 戸田 秀親

瀬江に対する私見
一、年極め購読料を事前徴集すること。
二、増頁を行ない、産業経済などを中心に教授の評論記事のほか、編集面にバラエティと新味をもたせる工夫が欲しい。
一、各支部に呼掛け出版基金を定期的に募金、購読料と合せ資金充実を達成すること。
一、企画、編集を専門家に委託しては如何。

北から南から

第六回 松本 廉吉

拝復 母校のため種々御尽力をなされまことに御苦労さまでございます。瀬江は是非つづけて御発行願いたく最近のニュース、行事、その他なるべくバラエティに富んだ内容のものにしていただければと存じます。何のお役にもたちませんがお申し付け下されば微力ながら働かせていただきます。 敬具

第六回 三好 憐彦

多少テーマから外れたかも知れませんが神戸の同窓会の近況をお知らせ致します。同窓会といえども同じ顔ぶればかりが集り勝ちですし、いつも同じ幹事が開催しますと出席者ももう一つ新顔が見られませんか、神戸では春秋二回の会合をその都度卒業年次をかえて幹事をするようになりました。

四十年春は十回卒の各氏が主催しました。今秋は二十四回卒の方々が主催してくれました。成果はまだなんともいえないがだんだん集りも多くなりバラエティが出て来るだろうと思っています。また何か目先の変わったことが飛び出したら、お知らせ致します。同窓の皆様元気に御活躍されん事を!

△ △

昔からよく同窓会に出席した方が偉あります。がその方々の理由を聞いてみますと、そのところに正しい同窓会のあり方が解るような気が致します。それで色々の理由を一応整理して今後の参考にしたいと思っています。
一、時間的理由 二、金銭的理由 三、社会的理由 例えは、同期より出世が遅れている、あるいは事業等がうまく行かないため、またその反対の場合で皆んなに顔を会わすのが気兼ねなどか恥しいとか。また例えは地位があるため同窓に頼まれたら断り難いとか。四、性格的理由 五、出席しても能く知った者がいないだろう、前回はそうであった等。六、願ききの者が同窓会を生耳について面白くない。七、同窓会のあるの知らなかった。知っていたがその時忘れた等。以上に

北から南から

大体区別されるでしょう、皆様がやあ!先日の同窓会に君来なかったがどうしていたという、以上のような理由を聞くでしょう。学校を卒業してわが俺がだんだん気まづ疎遠になるのも、こんな理由があることが多いと思います。同じ釜の飯を食って来ても、一応社会人になって、それぞれ自分の社会生活を持っているのだから、昔のような訳にはいかないでしょうが、それだからこそ同窓生に会って、お互に語り合い、困ったことの相談になり相い、助け相い、だれにもいえないことがお互に相談出来るのが、同窓ではないでしょうか。

卒業生の皆様、あなたは一人ぼっちではありません。同窓生が沢山付いていますよ。同窓会の本当の意義はこの辺にあるんじゃないですか。先づ以上の欠席者の理由をよく思い巡らし、暖い気持ちで、友を悪い意味で利用せず、裏切らずお互に打ち融け合い、憩いの場とするのが、同窓会ではないでしょうか。

第六回 伊藤 音七郎

第一項に就いて 母校教授、学生、卒業生の三者よりそれぞれ数名を抽出して適宜座談会を開催する。その記事を「瀬江」に掲載して批判を待つ。
右の方法が「瀬江」を向上させる一方法であり、相互の連絡を密にする方法ひいては母校の発展に資する一助ではないかと思考致します。

第七回 田中 雅次郎

二項通信 卒業以来丁度二十五年を経て、同窓諸君も職場家庭の重責を担う立場にあり、一別以来の思い出を語り合いたいと考えるが、それぞれ多忙にて、その機会にも恵まれないが、何とか第七回生懇親会をやって欲しいものである。食油、洗剤等油脂製品とLPガスや三洋電機厨房器製品の卸売業として(有)島長商店と出光産系石油販売店として小浜

石油輸を経営しており、同窓諸君の中で同業の人は今後一層御じっこんに御願い致し、色々御指導に預りたいと考えております。

第七回 真部 武義

毎回御恵送の瀬江懐しく拝読しております。小生現況いささか意気昂らず且は辺地に永住するため諸先生、同窓生各位に親しく御面晤の機会を得ず、ただ時折眼にふれる同窓会誌によってのみ懐旧の情を温めるのみです。
今後誌上に会友たちの消息、記念写真などをより多く掲載して戴ければ大変うれしく存する次第です。

第七回 古賀 省三

一、要約すれば大きな単位で連絡せずに小さなブロックを単位とする。例えば大阪でも各区毎に単位、部会を作って小さく、しかも大きくまとめて行く。関西地区、東京地区、等ではまとまりはむづかしいように思います。

第七回 田中 豊治

昭和十六年度卒業生諸氏御健在でそれぞれの分野にて御活躍のことと存じます。小生卒業以来宇部興産の石炭事業部に勤務しておりますが同部門の縮小化により、昨年四月以降セメント事業部に転出し、昨年十月以降東京支社セメント販売部に転動致しました。
東京周辺に所在せられる同窓生諸氏の動静をお知らせ願います。

四、五年前でした山口県宇部市にて支部発会式の際本部より藤原教授の来臨を願ったことがありますが、以前にも増した先生の温容に接し旧日の情に打たれた次第。その際母校の発展の状況をお聞きし、本当に卒業生として嬉しく感じました。終りに母校が増々発展せられんことをお祈りします。

第八回 橋高 正博

前略 二月十二日付貴調査に対しご返事申し上げます。
一、一度卒業生の動向調査をされてはどうですか、私自身最近の同窓の方の名簿を持っておりません。
二、私の現在の状況(昭和十六年十二月卒業)
現住所 岡山県井原市西原町二二三七

勤務先 岡山県後月郡明治中学校 担当教科 美術、職務内容 教頭
三、「瀬江」はずっと以前一度いただいただけで最近はいたいていありません。ので、希望、意見も申し上げられませんが、さらに内容の充実したものを編集集下さるよう期待しております。ご返事になったかどうか知りませんが悪しからず。
母校の今後の発展を祈ります。

第九回 武川 茂夫

三「瀬江」について
①編集部の方々は勿論、卒業生一同も感じておられることと思いますが、前回は余りにもお粗末でした。たとえ、諸費が高くついても大学の同窓会誌らしくあってほしいと思います。
②大学の内容、在学生の状況、運動部、文化部の活躍状況等も知らせてほしい
③山岳部の南米登山は快哉でした。
④同窓の関西学生卓球連盟副会長長松山義友氏等の韓国遠征、後輩の空手部南部君のバリ留学等愉快なニュースです。

第一〇回 串岡 茂

近況 戦時短縮で九月卒業、三菱銀行に二年、従軍後復職したが(同僚の平岩は本店課長)疎開の家族と別居を耐え難く母の里、東北石巻に下る。農協、漁協(学校で協同組合論も教授された)に会

第十回 和田 勉

別に意見はございませんが、住所の訂正をお願いします。
それから同窓会員名簿作成の時社別に同窓会員がわかるようなものを希望します。

第一一回 林 俊男

年月は流れても思い出すのは母校のこと。ひとたび校門を出ると仕事も違い生活も異なる。
しかしいつまでもできるだけ多くのみんなを知りよき友でありたい。
そこで全国で同じような仕事にたずさわる人も多いように思うので、そういう先輩後輩といろいろ話したり折にふれ文通できるようなものを考えたい。
たとえば職業別名簿の作成といったもの。いま一つは府県ごとの支部も各地でさかんだが、いまより広げてブロックごと(近畿、中国のごとく)のスケールあるものにしてみたかどうか。ブロック支

部ともなれば、もっと母校につなぐ卒業生のきずなも大きくなる。
以上二つの提唱は母校出身者の職業と地域による分布を示すことになる。
卒業生の誰しもが念ずるのは母校の発展あるのみ。それに役立てば喜ばしい。

白いチャーチのクロスが光る
南国のエキゾチックなこの丘が
せつなく恋しいふるさとなら
派手好みの美苗は赤い屋根
極端に走る徹也は黄色の屋根
あどけない佳苗はピンクの屋根
洗好み自慢のババはワインカラー
ライトブルーの空の下
ふるさと遠い毎日です

第二回 藤原 高芳

「瀬江に対する意見」
前号はまったくよくできておりました。一文・一句に同窓会誌としてのにじみ出るような味がありました。
三行広告式のものか、かえってよいかもしれないと思いましたが。多くの方の言葉のりまですの……。

第二回 中村 美智子
小林紀子さんへ
前号「瀬江」の私の原稿をお読み下さって早速おハガキをいただきました。全く同感したという私を喜ばせて下さってありがとうございます。そして私の生き方はどんな風ですかとお尋ね下さっていますが、私は貴女がお便りの中でおっしゃる通りに「年は経るともいつまでも頭の働きは若々しく発動していたいものです。フレッシュな感情の持続は難かしいものですが、いわゆる糖みずめ感覚にはなりたくないものですね。私は時々自分が結婚しているという心も、子供があるということも全然忘れてしまふ時があるのですが伸縮性のある考え方や発見が出来ていいものです。自分は常に二十才すぎのレディーであるという生き方をしています」という貴女の生き方そのまゝを私も生きています。伊藤整がモンテニニの言葉を引いて「人は年老いて恰柄に徳高くなるのではない、ただ情感の自然の衰えに従って自己を統制しやすくなるだけである」といっています。今年はお互に四〇才になりますが分別臭くなりたくない、それは情感が鈍くなったことを示す恥かしいことなのです。心の美しい健全な人ほど、自己の青春の中に見出した問題から青春を終えることの出来ない人とは自覚ではないかと私は思われます。またお便り下さい。

第一七回 目黒 昭二
二、瀬江は年何回出ているのですか、あまりおめにかからぬようです。従って余り意見もないのですが、編集面ではささか泥くささを感じています。
年一回読みごたえのあるものにしたらいかが？

あしわ会々長
同窓会理事
右御両名非常に張切っています。
私は今、閑時をもって不動産に関する貸借関係及び共同住宅経営等についての研究を些か始めています。為念

第二五回 小清水 芳郎

①の質問要項にお答えします。けちけちしないで、会費を沢山取り、おういに飲み、おういに語り合ひ、先輩、後輩の差別なく、互いに啓発されるような意義ある会にしてほしい。又母校の諸先生方も多数参加していただければ、老いも若きも学生時代にかえり気分あらたに、明日の仕事への勇気づけとなるのではないでしようか、独身男性も多数おるようですから、女性の方も、どしどし遠慮せず参加されたらなお一層愉快な会になるのではないでしようか。
以上

第二五回 益田 宗児

私は昭和三十四年三月に卒業してから今日まで母校へ二回きりしか行ってないはずば者です。決して敬遠していたの

第一四回 松倉 茂子

第三回 牟礼 志加代
一、今迄通りでいいと思います。
二、同窓会等の便りは写真も一緒に掲載されればいいと思います。
三、家庭にいます。故郷遠く離れているのですべて消息がわかりません。
家庭の状況は、
ライトブルーの空の下
ダークグリーンの木の間

昭和三十五年春、長年の企願がかなって本校に入学することが出来た。高校を卒業してから三年間、家業にいそしみがらも、いつかは大学にいつてもう一度勉強したいという気持がはなれなかった。漸くにして入学はしたものの、私の思っていたものと、現実の大学生活とがあまりにもへだたりの大きいのにショックを受け、初心であった会計学を学び、

「私」の学生時代は正真正正に「恐い時代」であったように思われる。簿記会計に対して、真剣にとり組もうとすればするほど、自分は果してこれを適職だと信じ、これで生活の糧を得ることが出来るだろうかと思ひ、自分の使命がもたらす他にあるのではないかと思ひ、毎日のように古本屋をあさっては、哲学書、文学書にふけり四年の歳月を過してしまひ、只今はある宗教誌の編集にたずさわる身となった。全く違った道を歩み、泉谷先生をはじめ、諸先生方を最後まで手こずらせた私ではあるが、人生の悪いの場として、本校にいい知れぬ郷愁を感じる。またとなひ大学生活の中に、真剣に生きようとする人なら誰もが一度はぶつかるであろう「恐い」を経験した私は、平凡に生きる人たよりも神に選ばれた人間であらうと思うのである。

第三〇回 平田 義行

「私」は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

原稿をおよせ下さい

「瀬江」は、われわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたいと存じます。
つきましては、みなさまの原稿を心からのぞんでいます。随想ももちろん結構ですし、近況のお知らせでも結構です。遠慮なさらずとどしとどし編集室までお寄せ下さい。
なお「瀬江」に対するご意見がございましたら合わせてお知らせ下さい。

吹田市津雲台五丁目一番四号へ転宅致しました。よろしくお願ひします。

大阪市産業視察団一行に加わって世界一周（八十日間）視察旅行をされました。

同窓会支部連絡先

東京支部	服部 友一
滋賀支部	野田 邦弘
京都支部	木下 隆徳
姫路支部	永川 仁一
和歌山支部	松本 旬弘
岡山支部	大森 喜多志
山口県北九州支部	小田 護
高松支部	水野 高司
徳島支部	谷 俊一郎
九州支部	荒牧 博之
石川支部	石地 与四太郎

第三〇回 高橋 多実清

小生、昭和三十九年三月卒業生でございます。現在、実家の寺の職をつなぐため、修行中です。先日、機関誌「瀬江」を受けとり、先輩の方々の記事をよませていただきまして、感激致しました。われわれも一層「経大の同窓生だ」という意気をもって、生活していきたくと思っております。本日、切手少々お送り致します。少しの助けにもならぬとは思いますがよろしく、こんごともお願いいたします。

第三〇回 川上 勝明

バルザックではないけれども、数少ない一輪の「谷間のゆり」が動物の体臭のぶんぶんする地上へと迂回しながらやってきた。
最初は葉も千切れられ、大切な花さえも失いそうになる程の凄まじい埃だらけの荒々しい世界、とてもいき苦しい毎日である。

もう一度帰りたい。あの懐かしい静かな故郷へ。併し生活があり、家族的な掟が事実目前に構えていると身勝手は許されず耐えることに根性という美德らしきものが、ありそうな世俗、一先ず体験してみようではないか。「谷間のゆり」が染まるか、染まらずに育まれるか、これからが苦しい試験である反面、楽しい人生のゲームでもある。

仲間達よ、大いに苦しもうではないか。これこそが経大魂、マルキンズムじやないか。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。

第三〇回 川上 堅士

私は大阪経済大学卒業生の一年生に再び入学させて戴きました。先輩諸氏の御教訓によって、大いにファイトを湧かせて、一年生から二年生へと落第しないよう努力して行く覚悟でおります。この「瀬江」を毎回お送り下さいますようお願い致します。また時々私も投稿させていただきます。切手十枚同封させて戴きます。



▽大学が見違える
程立派になった
学窓を出てから
この方、たえて
学園を訪れるこ
とのなかった編
集子も、このたび同窓会の「澱江」の編集を手伝えという先輩の至上命令で、何十年ぶりかで大学にやってきました。

▽バスを降りて——そのバスの停留所も、いまはドブ川のホトリにはない。バスの道路は一つ北の通りに移っている——旧裏門をくぐりなつかしい旧掲示板と体育館。細長い、うなぎの寝床のようなコンクリートの道を通って旧校舎、旧正門へ——

▽左右はどれもこれもなつかしいものばかり、その一つ一つに思い出がある。

▽しかし、この思い出も旧正門まできて消しとんだ。そこには全く思いもかけぬ、新しい世界が拡がっていたのである。

▽表現は多少オーバーかも知れない。しかし、これは実感である。

▽くすんだ煉瓦色の本館と図書館、近代的な建築の粋を集めた学舎、どれも目新しいものばかり、頭に画いていた母校とは、およそかけはなれた構図だった。

▽かつて大学昇格にあたって、一生懸命草抜きをした校庭はいまはない。トラックも、砂場も、昼休みにごろりと寝ころんだ芝生も、もうそこにはない。

▽でも、そんな感傷が入りこむ余地のないほど、旧校庭一パイに建った建物は圧倒的だった。

▽この一瞬の感激は、長い編集にあたっての期間にも少しもうすれない。

▽よりむしろ、その内容を知り、偉容にふれて感激は新たなものとなった。

▽これは、どうしても全同窓生に知ってもらわなくてはならない。そして、この喜びをわかちあいたい。

▽もとより、引受けた時に、すでに澱江の発行が相当遅れているということも聞いていた。

▽しかし、この新しい学園をどのように紹介し、理解してもらうか

——これは多少時間をかけても澱江の体裁を変えて、内容のあるものにしたらどうだろう。こういう声が編集委員の間にきこえてきた。

▽もちろん従来の澱江が内容がないというのでは決してない。それはそれなりによく出来ていたが、この感激を伝えるには、あまりにも紙面が少なすぎる。

▽つくるからには郵送料も考慮に入られて、出来るだけ紙面を増し内容を盛り込んで——

▽また、体裁そのものも通例の形を変えて、斬新なものをいうことで変形正四方形となった次第。

▽編集企画についても、カンカンガクガク、いろいろの案があった。

▽しかし、何よりも現在の学園を同窓生に知っていただき、澱江を通じて学園と同窓生、さらには同窓生同志のむすび合いをさらに深めたいということ、先生達との座談会を一つの大きな柱に、いま一つは澱江の誌上で同窓生の目から見た学園史を綴っていく、ということになった。

▽座談会の席上では藤原先生、浅沼先生、梅田先生、鈴木先生、大槻先生となつかしい顔ぶれから縦横に学園の問題を話していただいたが、最後に、同窓会に対するご批判もチョッピリいただいた。

▽全くとお説きもつとも——今後は同窓会も内容の充実をはかることはもちろん、一層、先生と学生、さらには学園との連絡を密にして大学の発展に寄与していきたいということを確認したことだった。

▽また、一方の同窓生の目から見た学園史も時間の都合上限られた人達からの談話筆記だったため十分に意をつくしていない点があるかも知れない。記憶の間違はともかくとして、それ以上のものがあるとするならば、聞き出し方に問題があったことを特におことわりしておく。

▽いずれにしても、短時間の作業であつたために、ご満足のいかない点もあると思うが、次号は一層力をつくすことを約束してペンをおく。

(松本記)

同窓生の皆さんへお願い

■ 今年と同窓会名簿の改訂の年でもあります。3年の間に新しい数千の同窓生も増え、編集にあたっても新しい趣向をこらしたいと思っております。別紙申し込み用紙も同封いたしますが、必要な方はなるべく早くお申し込み下さい。

定価は1部500円、申し込みと同時に事務局までご郵送下さい。

■ なお、同窓生で住所の変更のあった方、或いは、職場を変えられた方がありましたら、その旨お申し出下さい。

また、ご友人、お知り合いで同様の方がお出の場合も、お手数ですが、別紙の葉書に、そのむねお書き込みいただければ幸いです。

もちろん、これは名簿の申し込みとは別個です。

■ さらに、名簿作成にあたっては広告を募集したいと思っております。

広告の価値はもとより、同窓会活動にご協力いただく意味でもふるってご参加下さい。

費用は 1ページ 2万円 (B5版)
半ページ 1万円

なお申し込みは、別紙名簿申し込みに合わせてお書き込み下さい。原稿別途ご郵送願います。

澱 江		第 2 号
昭和41年5月25日発行		
発行人	渡 辺 達 好	
発行所	大阪経済大学同窓会 大阪市東淀川区大隅通2丁目 電話 (381) 2431~3番	
印刷所	共成社印刷株式会社 大阪市北区葉村町40番地 電話 大阪 (371) 0254番	

学

歌

作詞 故 秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

逍 遙 歌

作詩 中村行男
作曲 松川圭一

一 大淀の
水は春ゆく
芽立つ葦原
この若さ

ゆたかな春だ
緑がしみる
希望は明るい
蒼空^{あおぞら}かけて
みなぎる学園
大阪経済大学

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に
確つかと植えた 融和^{シンゲル}の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ
白亜の殿堂
澄んだ心に
晴れ空だ
ひらく真理の
面はかがやく
大阪

秋空高い
鐘なりわたる
扉につどふ
求理の学園
大阪経済大学

四 澱江^{みづくし} 標

世界の商都の 入船出船
水先みちびく 経済実践
前途はるか
氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自治立つ学園
大阪 大阪経済大学

(四) 虫の音すだく秋来れば
小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然したいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時
緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり

(一) 此処城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたゞよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(五) 乱る金剛枯風の
叫ぶ野嵐粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌にきびしき鞭なれど
懐古染しや語り草

(二) 水やにこれる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(六) 霜ふみ通うこの朝
暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(三) 集いの庭を共にせし
我が学舎の乙女子は
愁の時過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(七) 小鳥が森に歌うとも
小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや



NO.2